

訓 解

官令類聚

沿革附

第壹號

月	一	年	一	十	治	明			
警達	征討	陸達	大	大達	内	内達	官達	官達	官布
甲一ヨリ六	第二	甲一ヨリ三	乙一ヨリ二	甲一ヨリ三	一	乙一ヨリ四	四	一ヨリ三	一ヨリ二
司民	司刑	内誌	東	東	東達	警	警		
第廿七ヨリ廿八	第四十八ヨリ五十	第四十二ヨリ四十三	七	乙一ヨリ三	甲一ヨリ二	十二	乙第一		

特 30  
196

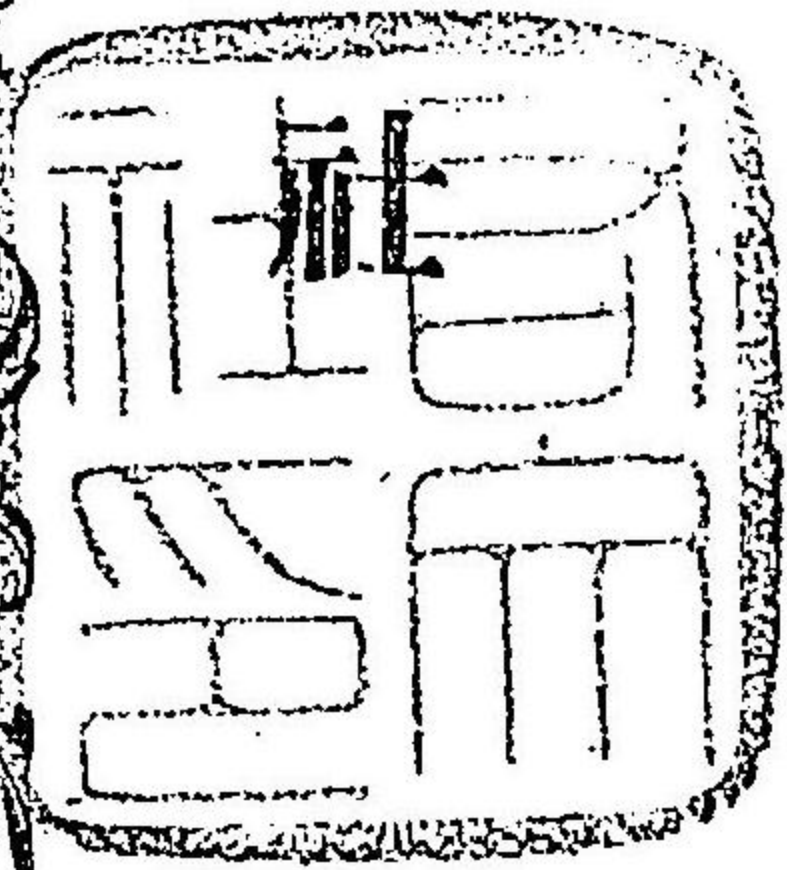
明治十一年第一月

訓 解

官 令 類 聚 第 壹 號

沿革附

右 文



021  
4  
021

編纂綱目ヲ以テ主ト爲スト雖凡人  
或ハ符號ニ由ルチ便トスル者アリ  
因テ此ニ羅列シテ敢テ重複ヲ避ケ  
ス看ルル人恕セヨ

訓  
官令類聚第一號標目 明治十一年一月

目次

- 太政官
  - 第壹 伊豆國八丈島東京二二府管轄
  - 第貳 貨幣ヲ鑄解スル等二三不相成
  - 御達 海軍佐官始勳等年一 金下賜
  - 御達 海軍佐官始勳等年二 金下賜
  - 御達 陸軍佐官始勳等年三 金下賜
  - 御達 陸軍佐官始勳等年九

○爵位勳階

○勳章之部  
太政官御 達 海軍佐官始勳等年金 一  
下賜

太政官御 達 海軍佐官始勳等年金 二  
下賜

太政官御 達 陸軍佐官始勳等年金 三  
下賜

太政官御 達 陸軍佐官始勳等年金 九  
下賜

○職制

○賦務章程之部

警視局 達 分署詰練兵助教出務 一〇  
警視局 達 書記ノ諸課管理殊別 一〇  
警視局 達 巡查品行諭達 一〇

標目

御 達	金下賜	御 達	鮫島尙信任全權公一	○任免之部	鮫島尙信任全權公使	一
御 達	使	御 達	末松謙澄免本官岩一	○服制之部	末松謙澄免本官岩倉	二
御 達	倉具經位階復舊	御 達	倉具經位階復舊	○警視局	具經位階復舊	二
御 達	逆徒征討始末書類二〇	御 達	取集方	○後備之部	警視官以下禮帽改定	二
御 達	神官旅費等級改正二二	御 達	勘定帳書式改正云二四	○警視局	巡查禮帽改定延期	二
御 達	々々之件	御 達	々々之件	○警視局	巡查外套着用心得	二
御 達	金穀及物品檢查官二五	御 達	員派出ノ件	○制度	日限	二
○內務省	乙 二	乙 三	虎列刺病再發云々二〇	○鑑札之部	濁酒釀造免許鑑札	一三
	品金額給與方法	乙 四	賣藥請賣鑑札料紙二二	○軍事	賣藥請賣鑑札料紙下附	一三
	乙 二			○後備之部	徵兵滿期後備軍編入下	一三
	內國博覽會自費出三〇				士昇進并再役者兄弟免役	一三

內 達	再任神官月俸支給二一	陸軍省達甲第一號	戰死者ノ遺族扶助出願	一三
	方云々	陸軍省達甲第三號	戰死軍籍ノ寡孤扶助	一三
○大藏省	甲 一	○警 察	渡方	一三
	濱松於テ銀行設立二三	○家業之部		
	甲 二	○警視局甲第四號	八品商規則中追加	一四
	二圓紙幣紛失云々二三	○警視局甲第二號	雇人請宿規則中改正	一四
	秩祿公債証書紛失二二	○警視局	徵毒檢査取締上改正	一四
	發見	○道路之部	街路取締規則設定	一五
	乙 一	○警視局甲第五號	市街ニ獨樂等ノ遊戯	一七
	濁酒釀造免許鑑札一二	○警視局 分署達	差留	一七
	乙 二	○水路之部		
	米商會社ニテ支社	○警視局甲第一號	海軍練兵場砲發通船止一七	一七
	分店等不相成云々	○遺失之部		
	大 達	○警視局甲第三號	外務省鑑札四十三九號一八	一八
	太政官札民部省札			
	交換着可致ノ件			
○陸軍省	甲 一			
	戰死者ノ遺族扶助			
	出願			
	甲 二			
	徵兵滿期後備軍編			

標目

入下士再役者兄弟免役	警視局甲第六號	紛失	一八
甲三 戰死軍籍ノ寡孤扶	○名刺門標之部	銃獵鑑札拾得届出	一八
助渡方	警視局 達	巡查名刺寸法書式	一八
○征討費總理事務局	警視局 達	警部補以上門標書式	一八
第二 征討費ヲ以購買物	警視局 達	宅地番號戶主名札掲	一九
品賣却云々	出方		
○警視局	○逮捕拘引之部		
甲一 海軍練兵場砲發通	警視局 達	疾病ノ詐稱スル者拘	一九
船止云々	○防火之部	引方	
甲二 雇人請宿規則中改	警視局乙第一號	消防夜詰所移轉	二〇
正云々	○典籍		
甲三 外務省鑑札四十三	○書籍之部	逆徒証討始末書類取	二〇
九號紛失	太政官 御達	集方	
甲四 八品商規則中改正一四	○賑濟		
甲五 街路取締規則設定一五			
甲六 銃獵鑑札拾得届出一八			
乙一 消防夜詰所移轉 二〇			

警 達	分署諸練兵助教ノ一〇	○流行病之部	
警 達	者出務	內務省乙第三號	虎列刺病再發云々
警 達	書記諸課管理殊別一〇	○地理	
警 達	巡查品行論達 一〇	○郡界之部	伊豆國八丈島東京府
警 達	警視官以下禮帽改一一	太政官第一號	管轄
警 達	定日限	○會計	
警 達	巡查禮帽改定延期一一	○公債証書之部	
警 達	巡查外套着用心得一	大藏省甲第三號	秩祿公債証書紛失發見
警 達	徽毒検査取締中改一四	○月俸旅費之部	
分署達	正云々	內務省	再任神官月俸支給方
警 達	市街ニ獨樂等ノ遊一七	太政官 御達	神官旅費等級改正ノ件
警 達	戲差留	○貨幣之部	
警 達	巡查名刺寸法書式一八	太政官第二號	貨幣ヲ鑄解スル等不
警 達	警部補以上門標書一八	大藏省甲第二號	相成
式		大藏省	二圓紙幣紛失云々ノ件
警 達	宅地番號戶主名札一九	達	太政官札民部省札交換
揭出方			

標目

警達 疾病ト詐稱スル者一九  
拘引方

○勸農局

報告 農事ノ景況ヲ全國ニ八  
ニ報道スル云々

○佛國博覽會事務局

報告 本月一日佛郵船ニ二九  
ヲ輸送

報告 本月十五日郵船ニ二九  
ヲ輸送出航人云々

報告 本月廿九日郵船ニ三〇  
ヲ輸送及渡航人云々

報告 本月廿九日郵船ニ三〇  
ヲ輸送及渡航人云々

報告 本月廿九日郵船ニ三〇  
ヲ輸送及渡航人云々

報告 本月廿九日郵船ニ三〇  
ヲ輸送及渡航人云々

○東京府

甲一 內務布達圖書々目三四  
下渡

甲二 社寺遞減錄操上給三四

着手可致ノ件

○銀行之部

大藏省甲第一號 遠江國濱松ニ於テ銀行  
設立之件 二三

○帳簿之部

太政官御 達 勘定帳書式改正云々 二四

○征討費ノ部

征討費總 第二號 征討費ヲ以テ購買ノ  
物品賣却方云々 二四

○檢査之部

太政官御 達 金穀及ヒ物品檢査官  
員派出ノ件 二五

○勸農之部

勸農局報 告 農事ノ景況ヲ全國ニ  
報道スル云々ノ件 二八

○營業之部

大藏省乙第二號 米商會所ニテ支社分店 二八

大藏省乙第二號 米商會所ニテ支社分店 二八

二八

與方

乙一 船稅納付日割書 三五

乙二 賣藥稅上納日割書 三五

乙三 戰死者遺族給助願 三七

東達 社寺廢合跡地不濟 三二  
分調

東達 烟草稅上納日限 三四

東達 社寺境內へ出稼借 三五  
地願

東達 徵兵滿期後備軍編 三八  
入再役者兄弟免役

東達 戰死軍籍ノ寡孤給 三八  
助方

勸業 勸工場内へ出品者 三一  
心得

勸業 勸工場縱覽並賣買 三四  
差許

等不相成之件

○博物

○博覽會之部

佛國博覽會事務局 本月一日佛船ニテ輸送 二九

佛國博覽會事務局 本月十五日郵船ニテ 二九

佛國博覽會事務局 輸送出航人云々

佛國博覽會事務局 本月廿九日郵船ニテ輸 三〇

佛國博覽會事務局 送渡航人云々

內務省乙第二號 內國博覽會自費出品 三〇  
金額給與方法

東京府勸業課 勸工場内へ出品者心得 三一

東京府 達 社寺廢合跡地不濟分調 三二

東京府學務課 師範分校試檢問夜學 三二  
休業

東京府記錄課 區内實況表用紙改正 三二

東京府學務課 小學習字帖調製請取方 三二

東京府學務課 小學習字帖調製請取方 三二

東京府學務課 小學習字帖調製請取方 三二

東京府學務課 小學習字帖調製請取方 三二

學務	師範分校試檢間夜	三二	東京府學務課	小學習字教授方心得	三三
學務	學休業		東京府戶籍掛	區內轉居戶籍記載方	三三
學務	小學習字帖調製請取方	三三	東京府勸業課	勸工場縱覽並列品賣買免許	三四
學務	小學習字教授方心得	三三	東京府庶務課	區內修繕民費伺方	三四
得			東京府	烟草稅上納日限	三四
記錄	區內實況表紙改正	三二	東京府甲第一號	內務布達圖書々目下渡	三四
庶務	區內修繕民費伺方	三四	東京府甲第二號	社寺遞減錄操上給與方	三四
戶籍	區內轉居戶籍記載	三三	東京府乙第一號	船稅納付日割書	三五
戶籍	借宅人失踪跡取計	三七	東京府	賣藥稅上納日割書	三五
戶籍	借宅人失踪跡取計	三七	東京府戶籍掛	社寺境へ出稼借地願	三五
戶籍	方云々		東京府乙第三號	借宅人失踪跡取計方	三七
戶籍	失踪人復歸取計方	三七	東京府戶籍懸	戰死者遺族給助願方	三七
			東京府	失踪跡人復歸取計方	三七
			東京府	徵兵滿期後備軍編入下	三八
			東京府	士昇進並再役者兄弟免役	三八
			東京府	戰死軍籍ノ寡孤給助方	三八

○內務省日誌標目

- 職制之部
  - (高知縣) 諸官員任免轉職宜旨拜受日限記載方伺 一
  - (神奈川縣) 私稱營業ノ會社ヨリ出金ノ節社名ヲ以テ賞與方伺 二
  - 服制之部
    - (和歌山縣) 羽織袴ヲ以テ禮服代用ニ付人民へ布達方伺 二
    - (嶋根縣) 禮服白鼠色ハ葦下臨時ノ朝議ニ限ル哉ノ儀伺 三
    - 民法之部
      - (山形縣) 漢方醫開業試験ノ儀ニ付伺 三
      - (靜岡縣) 第四課詰警部管内橋梁渡津等ノ賃錢附與ノ儀伺 四
      - (福島縣) 呼出狀遞送費及ヒ脚夫賃官費自費區別伺 四
      - (宮城縣) 國名舊官名等ヲ姓氏通稱ニ用フル者改稱ノ儀伺 四
      - (兵庫縣) 社寺ニテ金穀借用ノ節無租ノ寺院連署方伺 五
      - (栃木縣) 新規開業醫師學科試驗方伺 五
  - 職務罰例之部

(福岡縣)	罰俸追徴方ノ儀ニ付伺	六
(岩手縣)	獄丁其他無等出仕ノ者公罪ヲ犯シタル者處分伺	七
(秋田縣)	官吏懲戒追俸完納以前出張或ハ病死免職等ノ處分伺	八
(兵庫縣)	免職官吏再ヒ採用ノ儀伺	九
(三重縣)	遺失人ノ眞偽ヲ不弁官吏物品ヲ下付云々處分伺	一〇
(群馬縣)	○警察之部 軍人軍屬罪囚傳遞護送ノ儀伺	一一
(愛媛縣)	○教法之部 神官僧侶ノ外教導職ニテ禁厭祈禳執行ノ儀伺	一二
(和歌山縣)	一寺住職ノ者他國一宗教勤學出願聞届方伺	一一
(東京府)	○地理之部 地租改正費用賦課ノ儀伺	一二
(兵庫縣)	官林ノ落葉下草採取聞届方伺	一二
(石川縣)	○會計支収之部 越中國新川郡水災ニ付種粃代金年賦返納ノ儀伺	一三
(山口縣)	風震洪水ノ節急防費區分方ノ儀伺	一三
(島根縣)	失火等ノ犯罪人錯誤求刑ノ節旅費給與方伺	一四

(滋賀縣)	布告等揭示張替入費處分方伺	一四
(新潟縣)	○戶籍之部 脱籍無産復籍シカタキ者入籍ノ儀伺	一五
(和歌山縣)	外國人雇入ノ女分娩編籍ノ儀伺	一六
(三重縣)	○租稅之部 官地拜借ノ田畑天災ニ罹リタル節免除取調方伺	一六
(宮城縣)	○勸業之部 藥湯營業ノ者戶外看板書載方伺	一七

○司法省指令錄刑事標目

○特典之部

(熊本縣)	薩賊亂入ノ際奇特ノ儀有之懲役人減等伺	一
(山口縣)	外役中同囚ノ逃走スルヲ捕獲シタル者減等伺	二
(長野縣)	同囚ノ縊死セントスルヲ阻救シタル者減等伺	三
(愛知縣)	同囚ノ放火ヲ企ツル者ヲ首報スル者減等伺	四
(熊本縣)	賊徒亂入ノ際解放ノ役囚復歸就役ニ付減等伺	五
(山口縣)	同囚ノ逃走スルヲ捕獲セシ者減等伺	五

標目



(山梨縣)	同囚ノ逃走ヲ差押ユル者減等伺	六
(福島縣)	逃走囚ヲ見認探偵ノ密告セル者減等伺	八
(岐阜縣)	同囚ノ死ヲ阻救スル者減等伺	九
(福岡縣)	懲役ニ處セラレ其妻柔弱父母ヲ侍養能ヌ者ノ儀伺	九
(石川縣)	國史畧中ニ之アル特旨減天下罪囚罪二等スルノ儀伺	一〇
(長野縣)	減等ノ役囚加役日數計算方伺	一一
(茨城縣)	水中ニ轉溺スル者ヲ救援シタル者減等伺	一二
(神奈川縣)	連累人并証人等喚出後書式心得方伺	一三
(京都裁判所)	他ノ裁判所ノ處斷誤刑ニ係ル者改貼方伺	一三
(靜岡縣)	原籍不分明ノ行倒或ハ縊死人ヲ官司ニ申報セズ 埋葬スル者處分方伺	一四
(大坂裁判所)	囑託ヲ受テ墮胎藥ヲ乞ヒ其用法等ヲ口授スル者 處分方伺	一五

(神奈川縣)	自用飲料ノ酒類ヲ賣渡ス者處分方伺	一六
(神奈川縣)	清國人ノ遊歩規程ヲ犯セシ者處分方伺	一六
(警視局)	禁獄者金銀貸借等ニ係リ親屬へ委任狀相渡ス者 之儀伺	一七
(愛媛縣)	賠償之部 贓金ヲ紛失シ懲戒例ニ處スル者賠償方伺	一八
(三重縣)	宣告書遞送費弁償方伺	一八
(熊本縣)	償役之部 賊徒亂入ノ際解放ノ役囚不埒ノ所業有之復歸ノ 後償役ノ儀伺	一九
(仙臺裁判所)	詐欺之部 詐欺ノ情ヲ知ラス成規ニ依テ買得タル地券証追 徴ノ儀ニ付伺	一九
(埼玉縣)	住趾姓名ヲ詐稱シテ投宿シ若干ノ物品ヲ預ケ置 不圖立去リシ者處分方伺	二〇

標目

- (滋賀縣) 他人ノ依頼ヲ受自己ノ名義ニテ地券ヲ申受他へ 擯賣スル者求刑ノ儀伺 二一
- (大坂裁判所檢事) 抵當トナシタル動産ヲ擅ニ賣却スル者處分方伺 二三
- 賊盜之部
- (神奈川縣) 盜守ナキ物品ヲ盜取ル者及ヒ再犯ノ士族平民ヲ以テ處斷ノ儀伺 二四

○司法省指令錄民事標目

- 訴訟之部
- (大審院) 証據書類誤字ノ義ニ付伺 一
- (橫濱裁判所) 民事ノ裁判ヲ受タル後吟味願ヲ爲ス者ノ儀伺 二
- (新潟縣) 民事關涉ノ儀伺 三
- (福島縣) 區入費出訴ノ儀伺 四
- 出訴期限之部
- (橫濱裁判所) 出訴期限起算方法ノ儀伺 九
- (神戸裁判所) 出訴期限經過ノ儀伺 七
- (熊谷裁判所) 出訴期限ノ儀ニ付伺 四

- (東京府) 要償ノ出訴期限ノ儀ニ付伺 一〇
- 証券証書之部
- (青森縣) 戶主不在中開業轉業等ノ儀伺 一〇
- (金澤裁判所) 印稅規則云々儀ニ付伺 一一
- (新潟縣) 本年七月第五十號公布証書ノ儀伺 一二
- (大審院) 証券印稅規則違犯ノ者ノ儀伺 一三
- 貸借之部
- (東京裁判所) 受人弁償ノ儀ニ付伺 一四
- (東京上等裁判所) 六年第四十三號布達中ノ儀伺 一五
- (岩手縣) 預リ金錢附込通帳利子ノ儀伺 一六
- (東京上等裁判所) 利息制限法之儀ニ付伺 一六
- (神奈川縣) 同上伺 一七
- (東京府) 同上伺 一七
- (山梨縣) 同上伺 一八
- (長野縣) 同上伺 一八
- (長野縣) 同上伺 一九
- (仙台裁判所) 同上伺 一九

(宮城縣) 同上伺

二〇

(松山裁判所) 同上伺

二〇

○書入質之部

(東京上等裁判所) 六年第八十號布告地所質入書入ノ儀伺

二一

○費用弁償之部

(長崎裁判所) 審理中ノ者却下云々ノ儀伺

二三

(愛媛縣) 身代限財產ニ付區戶長裁判所へ出願手當金ノ儀伺

二三

(高知裁判所) 訴訟入費償却ノ儀伺

二四

○論地之部

(東京上等裁判所) 從前地所爭論詞訟實地檢査測量吏員ノ儀伺

二五

○未納處分之部

(仙台裁判所) 地租徵收之儀伺

二五

○身代限之部

(岩手縣) 身代限處分ノ節土地耕耘收穫ノ儀伺

二七

訓解官令類聚

明治十一年第一月

○爵位勳階

○勳章之部

(太政官) 御達 一月七日

海軍大佐 從五位 仁禮 景範

鹿兒島逆徒征討之際各地出張軍務勵精其功不少候段

勳感被爲在候仍テ勳三等ニ叙シ旭日中綬章并年金二百六十圓下賜候事

海軍中禮史 正六位 有馬 純行

鹿兒島逆徒征討之際各地出張拮据勉其職任ヲ盡シ候段

勳感被爲在候仍テ勳三等ニ叙シ旭日中綬章并年金二百六十圓下賜候事

海軍中佐 正六位 井上 真馨

鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ年金百八十圓下賜候事

海軍少佐 從六位 磯部 包義

臺灣蕃地之役ニ從事シ今般鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ  
年金百八十圓下賜候事

海軍大佐 從五位 松村 淳藏

海軍中佐 正六位 福島 敬典  
 海軍中佐 正六位 伊東 祐亨  
 海軍少佐 從六位 緒方 惟勝  
 海軍少佐 從六位 山崎 景則  
 海軍少佐 從六位 笠間 廣盾  
 鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ年金百三十五圓下賜候事

海軍中佐 正六位 澤野 種鉄  
 海軍少佐 從六位 青木 住眞  
 海軍少佐 從六位 兒玉 利國  
 臺灣蕃地之役ニ從事シ今般鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ年金百三十五圓下賜候事

(太政官)

一月三十一日

陸軍少佐 正七位 吉村 守廉  
 鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ年金百三十五圓下賜候事

陸軍少佐 從六位 河野 通行  
 曩ニ佐賀ノ役ニ從事今般鹿兒島逆徒征討ノ際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ年金百三十五圓下賜候事

(太政官)

一月三十一日

陸軍中佐 正六位 今井 兼利  
 同 同 黒木 爲禎  
 同 同 山治 元治  
 陸軍中佐兼少警視 從六位 綿貫 吉直  
 陸軍々醫兼二等侍醫 從五位 池田 謙齋  
 鹿兒嶋逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ年金百八十圓下賜候事

陸軍中佐 正六位 野崎 貞澄  
 同 同 阿武 素行  
 同 同 長谷川好道  
 同 同 土屋 可成  
 同 同 竹下彌三郎  
 同 同 中村 尙武  
 陸軍少佐 從六位 平岡 芋作  
 同 同 大沼 涉  
 同 同 仲木 之植  
 陸軍少佐兼陸軍裁判權評事 同 坂本 純熙

官令

陸軍少佐兼權少警視

正七位 迫田 利綱

陸軍少佐

從六位 大島 久直

同

正七位 大迫 尙敏

同

從六位 河北 俊弼

同

正七位 山脇 貞良

陸軍少佐兼權少警視

同 三間 正弘

陸軍少佐

同 岡本柳之助

同

從六位 別役 成義

同

同 牧野 毅

陸軍大尉

從七位 目加田 健

陸軍大尉兼大警部

川畑 種長

鹿兒島逆徒征討ノ際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ年金百三十五圓下賜候事

陸軍一等軍醫

正六位 維方 惟準

同

從六位 名倉 和文

陸軍一等軍醫正

同 三浦 煥

同

同 堀内 利國

陸軍二等軍醫正

同 青木 尙綱

同

同

田代 基徳

同

同

小山 内建

同

同

坂井 直常

同

同

八杉 利雄

陸軍會計副監督

正六位

井手 正章

陸軍會計二等副監督

從六位

小池 正文

同

同

吉澤 直行

同

同

平部 朝致

陸軍會計二等司契

同

寺田 利正

陸軍會計二等司契

從六位

笠 貞繼

同

同

新山春太郎

同

從七位

柴 直言

陸軍會計軍吏正

從六位

野田 裕通

右同文

陸軍大佐

從五位

高橋 勝政

同 少佐

從六位

河津 祐賢

鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ旭日小綬章下賜候事

陸軍少佐	從六位	葛岡 信綱
同	同	村田 經芳
同	正七位	大島 貞恭
同	同	相良 長發
陸軍少佐兼權少警視	同	江口 高確
同	同	檜垣 直枝
陸軍少佐	從六位	松村 延勝
同	同	井上 教通
同	正七位	宇津宮 茂敏
同	同	山田 通義
同	同	堀場 精一郎
陸軍大尉	正七位	水木 師現
同	同	平賀 國八
同	同	伊瀬地 好成
同	從七位	岡崎 生三
同	正七位	土屋 元成
同	同	小山 勝興

同	同	瀨崎 久誠
陸軍軍醫監	同	橋本 綱常
陸軍二等軍醫	正六位	原 桂仙
同	正七位	中泉 正
陸軍會計二等司契	從六位	西池 成顯
陸軍會計更正	同	石川 敬直
陸軍中尉	同	上田 貞貞
鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ金百五十圓下賜候事		八木 信守
陸軍中尉	同	宇都 純隨
右同文勳五等ニ叙シ年金百圓下賜候事		
陸軍中尉	同	字都 純隨
右同文勳五等ニ叙シ年金五百圓下賜候事		
陸軍中佐	正六位	中村 重遠
同	同	國司 順正
同	同	

曩ニ佐賀之役ニ從事シ今般鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ年金百八十圓下賜候事

官令

陸軍中佐	正六位	厚東 武直
同	同	茨木 惟昭
同	同	山川 浩
陸軍少佐	從六位	高島 信茂
同	同	西 寬次郎
同	同	勝田 四方藏
陸軍會計二等副監督	同	松本 正足
陸軍會計二等司契	同	川口 武定
右同文勳四等ニ叙シ年金百三十五圓下賜候事		
陸軍大尉	正七位	野田 時敏
同	同	上利 勝世
同	同	江間 孚通
右同文勳四等ニ叙シ金百五十圓下賜候事		
陸軍大尉	正七位	内藤 安宅
右同文勳四等ニ叙シ旭日小綬章下賜候事		
陸軍一等軍醫正	從六位	橋本 綱維
陸軍會計二等司契	正七位	中村 宗則

曩ニ台灣蕃地ノ役ニ従事シ今般鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ 年金百三十五圓下賜候事	陸軍中佐	從六位	佐久間 左馬太
曩ニ台灣蕃地ノ役ニ従事シ今般鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ 年金百八十圓下賜候事	陸軍少佐	正七位	比志馬 義輝
同	同 大尉	同	吉利 用通
同	同 大尉	同	山崎 成商
同文勳四等ニ叙シ年金百三十五圓下賜候事	陸軍大尉	正七位	松村 春智
右同文勳四等ニ叙シ旭日小綬章下賜候事	陸軍少佐	從六位	河野 通行
曩ニ佐賀ノ役ニ従事シ今般鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ 百三十五圓下賜候事	(太政官)	一月三十一日	
陸軍少佐	從六位	内藤 之厚	
鹿兒島逆徒征討之際盡力不少候ニ付勳四等ニ叙シ年金百三十五圓下賜候事			

○職制

○職務章程之部

(警視局)

一月十五日

各 分 署

各分署訓練兵助教トシテ毎勤ノ者日曜日ヲ除クノ外夜分丈ケ出務致スヘシ此旨相達候事

(警視局)

一月十七日

各 課 各 分 署

是迄第六課ニテ管理致シ候外國人ニ係ル文書往復ノ事務ハ總テ書記課往復掛リニテ主管シ民刑事ニ渉ル取調ヘ事務ハ第三課ニテ主管セシメ候事是迄第七課ニテ管理致シ候直管監獄事務自今諸規則ニ係ルハ規則掛リ警部巡查身分ニ係ルハ第一課會計ニ係ルハ第四課其他ノ諸務ハ第二課ニテ管理セシメ候事

(警視局)

一月二十九日

各 課 各 分 署

巡查ノ職タル第一人民之依信ヲ得ルニ非サレハ其効相立難キニ付平常ハ勿論臨時出張先等ニ於テハ尙更謹直ヲ加ヘ醉態淫行ニ類スル舉動決シテ有之間敷殊ニ娶妻ニ付テハ明治九年七月第三十一號ヲ以テ達置候次第モ有之萬一猥褻不行狀ノ末ニ婚姻約束等妄ニ取結候儀モ候テハ相成ラス候各々篤ク其意ヲ體シ右等不體裁ヲ釀成候儀無之様致スヘシ此旨猶又諭達候事

○任免之部

(天政官)

一月十二日

任特命全權公使

外務大輔兼議定官

從四位

鮫島 尙信

(次政官)

一月二十九日

依願免本官并出仕

權少書記官兼陸軍省七等出仕

末松 謙澄

正五位復舊被 仰付候事

岩倉 具經

○服制之部

(警視局)

一月十六日

各 課 各 分 署

當局警視官以下禮帽之橫線改定相成候ニ付テハ本月三十一日迄ニ新制ニ可相改此旨相達候事

但巡查ノ分筋糸ハ現品ニテ相渡シ取附料ハ一線ニ付金三厘宛下付可致候間第四

課ヨリ受取分署ニ於テ取付方可取計事

(警視局)

一月十九日

各 課 各 分 署

第四號ヲ以テ相達候禮帽橫線改定日限ノ儀巡查ノ分詮議ノ筋有之二月ノ支給品ヨリ改正候儀ト相心得ヘシ此旨相達候事 但日限ノ儀ハ追テ相達ス可キ事

(警視局)

一月十九日

各 分 署

巡查外套ノ儀降雪霰ノ外午前交代ヨリ午後交代時間迄必ス襟ヲ折リ着用致ヘシ此旨相達候事

官令



○制度

○鑑札之部

(大藏省)

乙第一號

一月十五日

明治十年十二月第八十一號公布中濁酒釀造免許鑑札別紙之通候條此旨相達候事

(內務省)

乙第四號

一月廿四日

昨明治十年十二月太政官第八十九號ヲ以テ賣藥規則改正公布相成候就而ハ請賣鑑札料紙ノ義ハ自今大藏省ヨリ可相渡候條該府縣廳名ヲ記入押印致シ上端ニ割印ヲ押シ下附可取計此旨相達候事

追テ此度ノ義ハ見込ヲ以テ不日配賦可致候條爾後ハ凡一ヶ年分豫算ヲ以テ受取方同省へ可申出專

○軍事

○後備之部

(陸軍省)

達甲第二號

一月十七日

七年徵兵ニテ本年滿期第一後備軍へ編入スヘキ者之兄弟中本年徵兵相當之者ハ當時在役ノ兄弟追テ第一後備軍へ編入候迄入營延期セシメ候旨兼而相達置候ニ付賊徒平定後既ニ第一後備軍へ編入セシ者之兄弟ハ其鎮臺ニ於テ直ニ入營可申付ハ勿論ニ候所在役中下使ニ昇進又ハ再役セシ者其他徵兵令參考第三十七條ニ相當スル

者之兄弟ハ免役可取計儀ト可心得此旨相達候事

但下士ニ昇進又ハ再役セシ者其他徵兵令參考第三十七條ニ相當セシ者ノ兄弟本年徵兵檢査之節病氣事故等ニテ翌年廻シトナル者ハ於其府縣免役取計置追テ徵兵使巡廻之節名簿削除ノ儀可申立專

○死傷處分之部

(陸軍省)

達甲第一號

一月十四日

府 縣

昨十年鹿兒島賊徒征討之際戰死致候軍人之寡婦孤兒扶助之儀陸軍恩給令條款ニ掲載之手續ヲ以テ早々出願候様其遺族へ相達於其應恩給令及右書式ニ對照シ調査之上無遲滯其筋へ可差出此旨相達候事

但戰死ノ本人寡婦孤兒無之者並ニ當省出仕文官ニシテ恩給令附錄ニ適當スル者ハ本文ニ準シ申告可致且其他之者ノ寡婦孤兒恩給令ニ據リ扶助ヲ可願者モ同様取計可差出專

(陸軍省)

達甲第三號

一月十七日

昨十年賊徒征討之役并九年十月熊本縣下騷擾之際戰死或ハ傷痍ニ源因シ竟ニ死ニ至ル軍人軍屬ノ寡婦孤兒へ恩給令ニ因リ扶助料下賜候迄手當金之儀ハ十年大坂陸軍事務所丁第四百十九號達ニ照準シ總テ本籍府縣ニ於テ一時立替下渡置追テ扶助料下賜候節差引相立可申此旨相達候事

官令

但本文手當金は迄近衛局鎮臺等ニ於テ下渡有之分ハ其旨同局臺ヨリ本人本籍府縣へ照會可致候條追テ扶助料下賜候節該府縣ニ於テ差引相立可致返戻事

○警察

○家業之部

(警視局) 甲第四號 一月十五日

八品商取締規則中左ノ通追加候條此旨布達候事

第二十二條 總テ此規則ニ違背スル者ハ鑑札取揚ケ又ハ取揚ケス相當ノ處分可申付事

(警視局) 正誤 明治十一年一月甲第四號布達

八品商取締規則追加第二十二條ハ第二十三條ノ誤

(警視局) 甲第二號 一月十四日

雇人受宿規則第二十條左之通り改正候條此旨布達候事

第二十條 雇人之身分保証之條件ハ受宿ト雇主ノ間ニ豫メ結約ヲ爲シ置ク可シ其身元受宿ニ對シ保証ノ責ニ任ス可シ

但廢業シタル後ト雖モ口入レシタル雇人之約定期限中ハ本條ノ通りタル可シ

(警視局) 一月十六日

明治九年七月二ノ第四百十六號達徴毒檢査取締掛心得第十二條左ノ通改定候條此

官相達候事

第十二條 土曜日出張時間(四月ヨリ九月近午前九時十月ヨリ三月迄午前十時)

ヲ以テ定期トス

○道路之部

(警視局) 甲第五號 一月十六日

街路取締規則左之通相定候條此旨布達候事

但從前之布達等本文ニ抵觸スル者ハ廢止ト可相心得事

街路取締規則

第一條 凡テ下水外ニ招牌標旗物干等建設スルヲ許サス

第二條 街燈ヲ建設スルハ下水際ヨリ一尺迄ニ限ル可シ

但人道車道區別アル場所ハ此例ニ非ス 人道車道區別アル場所ハ家屋土臺際ヨリ二尺迄テニ

第三條 日除ケ張出シ及ヒ物品排列スルハ下水際 限ル可シ

第四條 使用セサル荷車其他諸車ヲ置クハ檐下又ハ垣根等ニ寄セ往來之妨害ヲナ

ス可カラズ

第五條 街路ニ沿フタル地ニ薪炭其他物品ヲ積置ク時ハ高サ九尺以下ニ限ルヘシ

第六條 左之諸件ニ於テハ其場之圖面ヲ添ヘ該也所轄之警視分署へ出願スヘシ

第七條 一家屋土藏等甲地ヨリ乙地へ引移ス爲メ街路ヲ通過スル者  
公衆之爲メ街頭ニ便所ヲ建設セントスル時ハ其場之圖面ヲ添へ該地所轄  
之分署へ伺出ス可シ

第八條 材木土石等搬運之節不得已ニ夜以上街路ニ停メ置ク時ハ其旨巡行之巡查  
へ申付スヘシ  
一第三條第五條ノ場合ニ於テ已ムヲ得ス制限外ニ及フ者  
一街頭ニ於テ荷拵又ハ木挽等ヲナサントスル者  
一工事之爲メ材木土石等ヲ街頭ニ積置キアルヒハ板圍ヒへ足場等ヲ設ク  
ル者

第九條 但夜中ハ通行人之衝突セサル様目標ヲ建置クヘシ  
街路ニ沿フタル地ニ竹木ヲ貯フル者ハ必ス鎖鎖又ハ繩索等ヲ以テ嚴ニ元  
繼續シ顛仆セサル様注意ス可シ

第十條 家屋垣牆等朽腐壞敗シ又ハ瓦石之墜落セントスル危險之虞アル者ハ速カ  
ニ修補又ハ改造ス可シ

第十一條 屋上又ハ檐端等ニ物品ヲ積載スル時ハ墜落セサル様防禦ヲ嚴ニス可シ  
第十二條 第三條第四條第八條第九條第十條第十一條ノ場合ニ於通行之妨碍トナ

第十三條 ル可キ者又ハ墜落之虞アル者ハ直ニ取除カシムルヲ可シ  
免許ヲ不得猥リニ床店被簀張ヲ建設シ又ハ人寄ヲナシ通行ヲ妨クヘカ  
ラス

第十四條 諸荷物ヲ負擔シ休憩スルハ路傍ニ避ケ通行ノ妨ケヲナス可カラズ

第十五條 街路中央ニ佇立シ或ハ小兒ヲ放歩セシム可カラズ

第十六條 紙鳶ヲ揚羽子ヲ掲キ及獨樂ヲ翫弄シテ通行之妨ヲナス可カラズ

第十七條 車馬通區畫中ハ假車馬道  
車馬ノ外往來ヲ爲ス可カラズ  
チ除ク

（警視署） 一月五日 各區務所  
昨明治十年二月十日甲第五號ヲ以テ本署ヨリ被相達通リ市街ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ羽  
子ヲ打チ及ヒ當テ獨樂ヲ翫弄候儀不相成候所右ニ違背シ道路ニ於テ右所業候者多  
數有之候趣ニ付至急區務所ニ於テ右等之戲遊致間敷様懇篤ノ諭達取計有之度右違  
後尙違背候者有之候ハ、拘引之上親子共ニ所分可致ニ付小兒有之者へ無洩諭達被  
致度候也

（警視局） 甲第壹號 一月七日

海軍省東海岸練砲場ニ於テ來ル九日午前第九時ヨリ正午十二時迄「アルムストロ  
ンク」砲發射候趣該省ヨリ通知有之候條右時間中同所通船差止候條此旨布達候事

官令

○遺失之部

(警視局) 甲第三号 一月十四日

獨逸國公使館雇植武之助所持外務省第四十九号鑑札同館雇本間三郎所持同第四十三號鑑札紛失致候旨該省ヨリ通知有之候條拾ヒ得候者速ニ最密警視分署へ可届出此旨布達候事

(警視局) 甲第六号 一月十七日

獨逸公使館附屬ケハウエル氏へ相渡置候第十八號銃獵免許狀遺失候旨昨十年十一月甲第六十一號ヲ以テ布達候所右ハ拾ヒ得届出候條此旨布達候事

○名刺門標之部

(警視局) 一月十五日

一等巡查以下名刺寸法書式左ノ雛形ノ通り相定メ候條此旨相達候事

曲尺縱三寸

同横一寸二分

東京警視第何方面何分署詰  
何ノ部  
何之誰

(警視局)

一月十六日

各課各分署

當局警部補以上本官ノ者宿所門戶掛札書式寸法左ノ雛形之通り相定候條此旨相達

候事

但本署詰并ニ各分署詰之別ナシ必ラス掲ケ候義ト相心得ヘキ事

堅曲尺八寸  
横二寸八分

本官 姓名  
兼官 姓名

(警視局)

一月二十三日

各分署

宅地番編札并戸主名札等掲出方之儀去明治九年十二月甲第百四十四號ヲ以東京府ヨリ布達相成居候所往々等閑ニ相心得候者モ有之趣ニ付巡查ニ於テ注意致シ掲出無之候ハ々直ニ申論候様可致此旨相達候事

○逮捕拘引之部

(警視局)

一月十一日

各分署

裁判所ヨリ引立者等照會有之節取扱振ノ儀左ノ通司法卿へ相伺指令有之候條爲心得此旨相達候事

區裁判所ヨリ召換スル者之内或ハ病氣ト稱シ代人差出シ候者吟味上不都合生候趣ヲ以テ警視分署へ本人之病症ヲ診斷セシメ出頭スルモ後患ヲ醸サ、容休サニ候ハ拘引候様照會ノ向有之右ハ疾病ト詐稱スル者ノ外假令後患ヲ爲サスト

診斷スト雖モ病者ヲ拘引スル事情憫然之事ニ候併シ裁判上差問ト有之上ハ民刑ノ差別ナク其照會通リ取計可然哉

(指令) 同之趣疾病ト偽稱スル者ノ外民事ニ於テ病者ヲ引致スル儀ハ不相成候事  
○防火之部

(警視局) 乙第一號 一月十九日 區長 戶長

第六方面第一分署構内ニ設置候消防一二番組夜詰所今般深川龜住町六番地へ引移候條爲心得此旨相達候事

○典籍

○書籍之部

(太政官) 一月二十九日 賊徒之懲役人ヲ發配アル府縣へ御達

鹿兒島逆徒征討始末編輯候ニ付右賊徒懲役人之内其事情及ヒ戰地ノ形狀等詳悉致シ候者ハ該事ノ顛末ヲ筆記セシメ文筆之ナキ者ハ口述書取ニ致シ書類取集メ早々差出ス可シ此旨相達候事

○賑濟

○流行病之部

(內務省) 乙第三號 一月十九日 府縣 東京警視本署

虎列刺病流行之儀冬季沍寒ニ向ヒ一旦及消滅候景況ニ候得トモ病毒潛伏致居時候

之不順各人ノ不攝生ニ乘シ不時感受可致モ難圖既ニ大坂府和歌山縣等ニ於テハ連綿流行シ或ハ再發之萌モ有之ニ付於各地方壹人ヲリ共該病ニ罹ルモノ有之節ハ昨明治十年當省乙第七十九號達書ニ照準シ他病ニ紛レ再度蔓延傳播セサル様可致此旨相達候事

○地理

○郡界之部

(太政官) 第壹號 一月十一日

静岡縣管下伊豆國八丈島始七島自今東京府管轄被仰付候條此旨布告候事

○會計

○公債証書之部

(大藏省) 甲第三號 一月二十二日

秩祿公債証書明治八年發行百圓印シ七八〇〇番一葉同五十圓印七二三九番一葉右ハ昨十年甲第三十九號ヲ以テ及布達置候所今般發見之旨届出候條此旨更ニ及布達候事

○月俸旅費之部

(內務省) 一月十六日 府 縣 秋田縣東京府ノ外

十年第九十一號公達有之ニ付テハ再任神官ノ儀ハ月俸支給方同年第二號改正月俸

官令

規則公達ニ準據取扱フヘキ筋ニ候條心得ノ爲ノ此旨相達候事

但滿年賜金取扱ヒ方モ同様ナルヘシ

(太政官) 御達第三號 一月十九日 官院省使府縣

明治九年六月第六十四號達旅費定則第八章中神官旅費等級左ノ通改正候條本年一月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

官等旅費等給

- 神宮祭主〇三等
- 〇神宮々司
- 〇官幣國幣大社宮司
- 〇神宮禰宜
- 〇官幣國幣中社宮司
- 〇四等
- 〇官幣小社別格官幣社
- 〇國幣小社宮司
- 〇官幣國幣大社禰宜
- 〇神宮主典
- 〇官幣國幣中社禰宜
- 〇官幣小社別格官幣社國幣小社禰宜
- 〇神宮々掌
- 〇官幣國幣大社主典
- 〇官幣國幣中社主典
- 〇官幣小社別格官幣社國幣小社主典
- 〇五等

〇貨幣之部

(太政官) 第二號 一月十九日

通用貨幣ヲ鑄解シ又ハ其體面ヲ毀傷スル等其他總テ流通之用ヲ缺キ候所爲一切不相成候條此旨布告候事

(大藏省) 甲第二號 一月二十一日 府 縣

先般紙幣局ニナイテ半製豫備二圓紙幣二百八十枚紛失候處右之内二百四枚ハ既ニ本犯其外ヨリ引揚尙七十六枚引揚不相成右ハ出納頭記録頭官印番號未濟ニ付通

用可致品ニ無之探索中ニ候條日常交換之際各注意致シ前顯二圓札見當リ候ハ々其人宿所等精細相糺ニ速カニ其地方廳へ届出可申此旨布達候事  
但本文紙幣之儀ハ番號未濟之品ニ候得共本犯ニ於テ偽造候趣キニ付此旨可相心得事

(大藏省) 一月二十二日 府 縣 東京府大坂府神奈川縣ヲ除

太政官一兩一分ニ朱丹民部省二分一分二朱ニ朱之金札通用期限ノ儀ハ本年六月三十日迄延期有之候ニ付テハ交換着手ノ儀ハ遲テ相達スヘシ候得共先以テ管内流布ノ員額概算取調交換基金請取場所等見込相立三月十五日限リ出納局へ可申出候尤手操リノ爲メ此筋ニ成ヘシ貢納金ノ内へ取立上納可致候此旨相達候事  
但元金ノ儀ハ新紙幣及銀銅貨取交モ東京并ニ大坂仙臺長崎出納局出張所ニ於テ相達スヘシ候事

〇銀行之部

(大藏省) 甲第壹號 一月十五日

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金十二萬圓ヲ以テ靜岡縣管下遠江國濱松傳馬町十番地ニ設立シタル第二十八國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ本月ヨリ二十圓十圓五圓二圓壹圓五種之紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利足ト海關稅ヲ除ク之外租稅其他一切公私之取

官令

引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但右發行紙幣之儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支取人ノ名印并ニ裏面割印ノ異ナル而已ニ付別段見本相添ヘサル事

○帳簿之部

(太政官) 御達第一號

一月十七日

官院省使府縣

明治十一年一月以降勘定帳書式改正候ニ付明治八年八月第百四十九號達出納勘定帳書式ノ内乙號通算表明細表共同月以降差出ニ不及候條右原簿ハ整頓之上各廳ニ備置可申事

但勘定帳書式之儀ハ大藏省ヨリ相達ス可シ

明治六年三月第八十號ヲ以テ常額金渡方及ヒ勘定帳差出期相達候所若シ事故アリテ勘定帳定期之通送致シ難キトキハ五十日以内延期可差許ニ付其時々大藏省ニ可申出事

○征討費之部

征討費總理事務局

第二號

一月十九日

九州地方賊徒征討費ヲ以テ購買セル物品ノ内不用ニ屬シ賣却セシ分アラハ右金員ハ同費差繼拂ニ取計フ儀ト可相心得此旨相達候事

○検査之部

(太政官)

御達第二號

一月十七日

官院省使府縣

金穀及ヒ物品出納之實況検査之爲メ大藏省官員ヲシテ毎歲各廳ヘ派出セシメ候條此旨相達候事

但別册検査員派出規程爲心得相達候尤モ臨時派出之儀ハ明治七年八月第百九號達ノ通可相心得事

検査員派出規程

第一條 本年第一號達ニ基キ各官廳ニ整備スル内譯明細簿ヲ始メ總テ金穀及

ヒ物品ノ出納並ニ計算之實況ヲ検査スル爲メ毎歲二回ヨリ少カラズ検査員ヲシテ官院省府縣ニ派出セシム可シ

第二條 大藏卿ハ検査員ヲ派出セシムル之時凡十五日前ニ於テ其旨各廳ニ告知ス可シ

第三條 検査員ヲ各地方ニ派遣スルハ連接ノ地方ヲ區分シテ區ニ派遣ノ人員ヲ兩名ト定メテ巡回セシム可シ

第四條 検査員ノ各地方ニ滞留シテ事務ヲ検査スルハ豫メ日數ヲ限ラズ該事務之便宜ニ從フ可シ

第五條 各廳ニ於テ周年収支之目途ヲ立ツルハ該年豫算決定之金額ニ基ツク

官令

モノナリト雖モ或ハ成規ニ違ヒ其宜キヲ得サルモノアレハ之レヲ更正セシム可シ

第六條 検査員派出前送達セシ勘定帳ノ内成規ニ戾觸スルノ條又ハ事由不明瞭ノ件アレハ検査員之ヲ携帶シ該廳ニ就テ検査シ未タ送達セサル向ハ該廳ニ到リ其帳簿ニ就テ検査スヘシ

第七條 勘定帳之調成稽滯スル者ハ其事件ト所由トヲ推究シテ大藏卿ニ具申ス可シ

第八條 勘定帳内譯ケ明細簿ノ内成規ニ悖戾スル等之件アルトキハ其事由ヲ掲記シ該廳長官ニ申報スヘシ若シ其事理不明了ニシテ成規ノ照准スヘキナキカ或ハ該廳長官ノ專斷ニ出ルカコトキ詳悉具狀シテ決テ大藏卿ニ請フヘシ

第九條 内譯明細簿ノ内前條ニ掲クル類夥多ナルトキハ其簿冊ヲ携帶シ歸テ省中ニ於テ検査スルコト有ル可シ

第十條 出納検査ニ要用ナル計簿ハ悉皆點檢スルヲ得ヘシ

第十一條 府縣經費ノ内目今某省へ稟儀中ニテ未タ指令ヲ得サルカ又ハ甲之省府縣ヨリ乙ノ省府縣へ一時操替金等アリテ夫カ爲結算ニ至ラサル者ハ其事實ヲ精覈シ該狀ヲ大藏卿ニ具申シテ其指圖ヲ受ク可シ

第十二條 經費ノ内主管ノ廳へ請求ス可キ費用ニシテ未タ調理整頓セサルカ故ニ請求ノ場合ニ至ラス之レカ爲メ結算ニ支障アルモノハ速カニ調整請求セシム可シ

第十三條 經費ノ殘餘或ハ諸收入金ノ納付ス可キ者アルトキハ速ニ完納セシム可シ

第十四條 銀行又ハ爲換方ト各廳トノ間ニ交渉セル事務或ハ官金直取扱之向ハ其順序ヲ精覆シ若シ了解シ難キコトアルトキハ推問ノ上其事狀ヲ大藏卿ニ具申ス可シ

第十五條 該廳ニ現在之金ハ大藏省及各廳ヨリ交付シタル金又ハ預金其他諸收入金等總テ現金有高帳ニ照シ其員額ヲ點檢シ區分明瞭苟モ交互錯雜ナカラシム可シ

第十六條 歳入出豫算決算ノ法則月俸旅費其他雜給ニ關スル規則或ハ簿記之雛形計算ノ方法等曉解シ難ノ條件アリテ諮問ヲ受ル時ハ例規ニ照シ事理判明ナル者ハ其趣旨ヲ以テ回答ス可シ

但疑問ノ回答ハ派出検査員ノ名ヲ以テス

第十七條 疑問照會ヲ受ケサル件ト雖モ検査ノ際該廳ニ於テ成規ヲ誤解セシト認ムル者有レハ其旨ヲ説明シテ成規ニ據ラシム可シ



第十八條 物品請拂ノ計算ニ於ルモ前各條ニ掲載スル例規ニ准シ検査ス可シ  
第十九條 派出検査員ハ勘定帳明細簿検査之形狀ヲ始メ各廳出納事務ノ實況  
計算方法ノ得失等ヲ詳悉シ以テ復命書ヲ作り之ヲ大藏卿ニ出ス可シ  
○勸農之部

(勸農局) 臨時報第一號 一月二十一日

内外農事ノ景況ヲ収攬シテ之レヲ全國ニ報道シ其損益ヲ計較シ得失ヲ審按スルハ  
大イニ農務實際ノ事業ニ裨益ヲ與フルノ要件ナルヲ以テ本年一月ヨリ各地方廳ト  
本局トノ間ニ農事ノ通信ヲ開ケリ今其規則ニ基キ各地方廳ヨリ通信委員ヲ開申セ  
リ依テ玆ニ掲載シテ各廳ノ委員ニ報告ス

通信委員○東京府辨和爲繼飯塚年整○神奈川縣四等屬石渡正敏○靜岡縣六等  
屬遠藤芳樹十六等出仕星田茂幹十七等出仕吉田清慎○山梨縣三等屬福地隆春  
七等屬城山靜一○宮城縣五等屬林通貴七等屬小倉長太郎八等屬佐伯眞滿八等  
屬矢野東十等屬藤野慶治

○營業之部

(大藏省) 乙第二號 一月十七日

府 縣

米商會所同仲買人共ニ於テ支社分店又ハ出張所等取設ケ其業務取扱候モノモ有之  
哉之趣右ハ決シテ不相成筈ニ候條若シ右様之向キ有之候ハ、差止メ可申候此旨相

達事候

○博物

○博覽會之部

佛國博覽會事務局 一月四日

佛國博覽會出品本月一日佛郵船タナイス號ヲ以輸送セシ分左ノ如シ

○教育品九箱文部省○古陶銅漆器十八箱博物院○漆器磁器織物醬油五箱長崎縣  
○陶器二箱熊本縣○陶器二箱岡山縣○額一箱本局○石炭三箱後藤象次郎○陶銅  
漆器織物五箱田中孫平○七寶燒磁器十二箱七寶會社○陶銅漆器二十箱工商會  
社○屏風陶器四箱箕田長次郎○合計箱八十一個原價金一万七千八百六十九圓  
七錢七厘

佛國博覽會事務局 一月十七日

佛國博覽會出品本月十五日郵船チルカ號ヲ以テ輸送及出航セシ者左ノ如シ  
教育品四箱 文部省○農業上產物三十八箱 勸農局○木石十一箱 地理局○古  
器物二十箱 博物院○磁器五箱 香蘭社○織物雜貨十三箱 三井物產會社○銅  
陶漆器雜貨二十四箱 起立工商會社○磁器指物雜貨十六箱 太田萬吉○七寶燒  
二十二箱 七寶會社○磁器五箱 圓中孫平○總計箱百五十八個 原價金二万二  
千八百五十七圓

官令

渡航出品人 三井物産會社 三井養之助外二人  
佛國博覽會事務局 一月廿九日

佛國博覽會出品本月廿九日郵船ナル號ヲ以輸送セシ分及ヒ渡航人左ノ如シ  
新舊貨幣一箱大藏省○船雛形並船具三箱海軍省○鑛物並燈臺圖七箱工部省○教  
育品二箱文部省○農業產物四十七箱勸農局○古漆器一箱博物局○北海道產物十  
三箱開拓使○銅器指物三箱新潟縣○陶器三箱三重縣○磁器七箱瓢池園○銅器八  
箱齋藤善兵衛○磁器三箱七寶會社○全四十五箱香蘭社○漆器七箱新井半兵衛○  
漆器銅器五箱箕田長次郎○雜貨十九箱起立工商會社○全十箱太田萬吉○合計百  
八十四箱原價二万五千五百五十圓七十六錢 ○渡航人起立工商會社若井兼三郎外  
四人

(內務省) 乙第二號 一月十五日

明治十年一月當省甲第一號布達內國勸業博覽會出品總目錄并ニ會場通行札賣上ケ  
代價之金額自費出品人へ給與之義ハ左之方法ヲ以テ施行候條右金額出品人へ可割  
渡此旨相達候事

- 出品總目錄並通行札賣上代價自費出品人へ配與方法
- 一 出品人申立之原價 一 外箱代并荷造費
- 一 運賃並物品取次所手数料

右之金額ヲ合算シ之ニ應シテ出品總目錄并ニ會場通行札賣上ケ代價之惣額ヲ割  
與ス可シ

一 東京府下之出品ハ前條之合算法ヲ用ヒス之ニ代ルニ本人申立之賣價ヲ以テ原價  
并雜費ヲ合算シタルモノト見做ス可シ

東京府勸業課

一月十一日

當府勸工場内永樂町二丁目一番地物品陳列所之儀追々新規出願之者モ有之今般出  
品者心得書左ノ通相定候ニ付此旨報告ス

出品者心得

- 第一條 出品セント欲スル者ハ別段願書差出スニ及ス直ニ其物品ト實印トヲ持  
參該事務所へ申出可シ  
但物品交換或ハ引下ケトモ本文同様願書ニ及ハス
- 第二條 出品ハ都テ其製造ニ念入ノ堅緻精良ニシテ能ク人之嗜好ニ適スヘキヲ  
考按シ且ツ成ヘシク下直ニス可シ
- 第三條 出品飾リ付ノ爲メ坪數ヲ要スル者ハ先以テ其旨申出可シ
- 第四條 出品ハ必ス一品毎ニ其賣價ト姓名トヲ記シタル小札ヲ貼付ス可シ
- 第五條 外國輸入品ハ一分陳列スルヲ許サザル可シ

官令

但模造擬製ハ此限ニ非ス

第六條 物品賣買濟ノ節ハ其旨品主ヘ告知ス可シ

第七條 賣買代價ハ每月末ニ於テ計算シ二十八日ヨリ三十一日迄ノ内品主ヘ下渡ス可シ

但二十五日以後ニ係ル分ハ翌月末ニ下渡ス可シ

第八條 約定手附金ハ其都度品主ヘ下渡サズ皆金請取ノ上第七條ノ通り取計ヲ可シ

第九條 出品同様(恰好直段トモ)之物品ヲ更ニ注文スル者有時ハ假約定ヲナシ買數日限等速ニ本人ヘ告知ス可シ

(東京府) 一月十一日

社寺廢合跡地所分未濟之分不勘地租改正調査ニ差支候條別紙離形之通每各小區無洩取調本月二十日限り無遲延有無共申出可シ此旨相達候事

東京府學務課

一月十一日

朱引内 公立小學校

准訓導 備教員

來ル十五日十六日十七日師範分校課業試驗施行致候ニ付右三日間同校夜學休業候條此旨通知候事

東京府記録課

一月十一日

各大區 區長

昨明治十年十二月ヨリ同十一年三月迄四ヶ月分區内實況表用紙少シノ改正シ且書式解追加一葉宛ヲ以テ送付及ヒ候條從來之用紙相廢シ十年十二月分ヨリ右改正用紙ニ取調差出シ可相成様各區務所ヘ分附可有之候也

東京府學務課

一月十二日

學區 取締

公立小學校教員

今般小學習字帖本并習字第四第五共調製相成候ニ付一學校ヘ一部宛假相渡候條請取方當課ヘ可申出此旨通知ニ及ヒ候事

但書學用紙紙ニ相製拂下ケ相成候ニ付是又及通知置候事

東京府學務課

一月十二日

東京府師範學校

朱引内公立小學校教員

小學習字科是迄楷行草之順序ヲ逐ヒ教授致來候所其土地ノ情態ニヨリ候テハ右順序ニ拘ハラヌ教授不苦候條此旨及通知候事

但可相授語文ハ當課編纂習字帖原本ニ據リ可申候事

東京府戶籍掛

一月十二日

區 戶 長

從前一區務所所轄内轉居之者戶籍新製致シ來候所自今新製ニ不及候間本月一日以來之分ハ舊書住所變換之所ヘ張紙致シ新住所ヲ記入シ該籍ヲ取除キ新住所ヘ編綴致スヘシ尤移轉之跡湮滅致シ候テハ他日事故相生シ調査之節差支ヲ生スヘシ候條

官令

東京府勸業課

一月十四日

區內轉居届書ヲ舊住所宅地番號順序ヲ以編纂速ニ調査相成様可致置此旨通達候也  
當府勸工場永樂町二丁目一番地内物品陳列所來ル二十日ヨリ開場縱覽賣買差許相  
成候條此旨報告ス

東京府庶務課

一月十五日

各 大 區 區長

但當日出品人エ門鑑札授與致シ候間印形持參該事務所へ出願スヘシ  
各區務所之内破損所有之修繕相加候歟其他都テ民費ヲ要スヘキ事件伺書之節ハ必  
ク該區戶長へ協議願印ヲ請ケ差出候様各區務所へ通達可有之此段及通知候也

(東京府)

一月十五日

朱引外區 戶 長

烟草卸小賣營業稅前半ケ年分稅則ノ通各小區ニテ取繼メ來ル三十一日限リ無相違  
上納可致此旨相達候事

(東京府)

一月十六日

內務省甲第二十五號布達圖書寫真板權書目ハ區長へ下渡置候條此旨布達候事

(東京府)

一月十六日

明治七年<sup>九</sup>太政官九十二號公布社寺遞減祿之内本年ヨリ來ル明治十六年迄ニ年々  
可下ケ渡金額一時繰上ケ給與ノ儀出願ノ者ハ一割引之算則ヲ以テ可下渡旨其筋  
達シ之趣モ有之候條出願致度モノハ當廳へ可申出此旨遞減祿所有之社寺へ布達候

事

但取調中ニテ初年以來内渡分モ本年ヨリ本文同様可相心得事

(東京府)

一月十六日

本年分船稅左之日割之通り當廳租稅課へ納付可致旨船持トモへ無洩可及告示此旨  
相達候事 (日割書略ス)

(東京府)

一月十六日

區 戶 長

賣藥營業稅昨十年半季分左之日割之通當廳租稅課へ相納メ候様右營業之モノへ無  
洩可及告示此旨相達候事 日 割

- 一月十九日 一大區 自四小區至十小區
- 同 廿一日 全 自十一小區至十六小區
- 同 廿二日 二大區 三大區
- 同 廿三日 四大區 五大區 自一小區至二小區
- 同 廿四日 五大區 自三小區至十二小區
- 同 廿五日 六大區
- 同 廿六日 自七大區至十一大區

(東京府)

一月十七日

社寺現境内へ從前家屋建設ケ或ハ掛茶屋等取設ケ日々出稼ノ者ハ更ニ地所拜借出

官令

願致可キ旨八年十月中相達候末出願遲延夫カマメ地料收入モ亦相後ノ居候所右ハ八年十一月ヨリ起算シ悉皆收入致ス可キ筈ニ付同月ヨリ更ニ拜借出願候迄之分小區毎ニ取調ヘ來ル二月二十日限リ別紙書式ニ倣ヒ明細書相添ヘ上納方取計ヘシ此旨相達候事

但拜借地價之儀ハ現今收入ノ坪當リヲ以テ調査ス可シ

第何大區何小區某(町村)何番地

某(社寺)境内 拜借人

第何大區何小區

某(町村)何番地

何 某

一 何程

此地料何程 但一坪ニ付一ヶ月金何程

右ハ何年何月中ヨリ(家屋建設日々出稼)罷在何年何月中地所拜借願濟

ニ付八年十一月ヨリ何年何月迄

何ヶ月分地料

合金何程

○以下倣之數人アルモ亦一紙ニ記載スヘシ

總計金何程

右取立上納候也

戶長

年 月

何 某

東京府戶籍掛

一月十七日

各區 區戶長

借宅ノ者全戶失踪ノ後家主ニ於テ其家屋ヲ引揚更ニ他人ヘ貸付候旨届出候節ハ失踪人住所書ノ内何番地借宅ノ文字ヲ消シ住所ノ上ニ其由ヲ登記シ該籍ハ其町村戶籍ノ末ニ編綴スヘシ尤居住或ハ借地ノ者ト雖モ失踪後其地所或ハ家作他人ノ所有ニ歸シ候上ハ前文同様取扱フヘキ筈ニ候條此旨通達ニ及ヒ候也

(東京府) 乙第三號 一月十九日

區 戶長

昨十年鹿兒島賊徒征討之際戰死致候軍人之寡婦孤兒ヘ扶助料下賜候ニ付而ハ恩給令條款ニ掲載之手續ヲ以テ右書式ニ照準可願出旨陳軍省ヨリ達シ有之候條右相當之モノハ早々當廳ヘ出願候様其遺族ヘ無洩可及告示此旨相達シ候事

但戰死者之内寡婦孤兒無之モノ允ニ陸軍省出仕之文官ニシテ恩給令附録ニ適當スルモノ其他軍人出軍中傳染病ニ罹リアルヒハ公務上死亡セシモノ之寡婦孤兒ニシテ恩給令ニ依リ扶助ヲ願出ヘキモノ本文之通り可相心得事

東京府戶籍掛 一月廿六日

各大區區戶長

失踪人復歸ノ節是迄府廳ヘ歸住願書差出候向モ有之候得共右ハ出願ニ及ハス候間届出候ハ、時々其本籍ヘ歸リ候様計ハルヘシ此段心得ノ爲メ通達及ヒ置キ候也

官令

(東京府)

一月二十八日

區 戶 長

七年徵兵ニシテ十年滿期第一後備軍へ編入スヘキ者ノ兄弟中昨年徵兵相當ノ者ハ即今在役ノ兄弟追テ第一後備軍へ編入候迄入營延期候旨昨十年六月當廳乙第五十七號ヲ以テ相達置候ニ付テハ九州地方賊徒平定後既ニ第一後備軍へ編入セシ者之兄弟ハ直ニ入營申付ヘキ筈ノ處在役中下士ニ昇進又ハ再役セシ者其他徵兵令參考第二十七條ニ相當スル者ノ兄弟ハ免役相成ヘキ旨陸軍省ヨリ達有之候條右ニ相當ノ者有之候ハ、無遺漏取調來ルル二月五日迄ニ遲延ナク當廳へ可申出此旨相達シ候事

但十年徵兵檢査ノ節病氣或ハ事故等ニテ本年廻シト相成候者并ニ本年徵兵ニシテ更ニ檢査ヲ可請者ノ兄弟中本文ニ相當スル者モ同様取調可申出事

(東京府)

第六號

一月二十八日

區 戶 長

昨十年賊徒征討ノ役并九年熊本縣下騷擾ノ際戰死或ハ傷痕ニ因リ竟ニ死ニ至ル軍人軍屬ノ寡婦孤兒ヘ手當金之儀是迄近衛局并鎮臺等ニ於テ下渡來候處自今舊管轄廳於テ一時操替可下渡旨陸軍省ヨリ達有之候條右ニ相當本貫ノ者ハ當廳へ可申出旨無洩可及告示此旨相達候事

# 內務省日誌

自明治十年第四拾二號至第四拾三號

○職制之部

第四十三號

高知縣伺

八月十四日

諸官員任免轉職共宣旨拜受ノ日ヲ以テ當日ト被定席順ノ儀ハ宣旨ノ日ヲ以テ前後可相定旨ノ公達ハ其宣旨ノ日ヲ記載シテ席順ヲ立ルハ獨リ官ノ扱上ニ開スル儀ニテ本人履歷書ニハ宣旨拜受ノ日ヲ記載スヘキ哉本年一月中諸廢官及ヒ諸廳廢合等ノ如キモ宣旨拜受ノ日ヲ以テ記載スヘキ哉果シテ然レハ再任三十日内外ノ區別并勤續取調方等モ亦其拜受ノ日ヲ以テ計算可然哉相伺候也

(指令) 明治十年十月廿九日 書面官員席順ノ儀ハ伺之通本人履歷書へ任免轉職ノ日記載方並再任三十日内外ノ區別勤續計算等ハ都テ辭令拜受ノ日ヲ以テ當日

內務省日誌

ト可相心得事 但廢官或ハ諸廳廢合等ノ儀ハ達書到達ノ日ヲ以テ記載スヘシ  
○賞與之部

第四十三號 神奈川縣伺 十月十九日

管下第九大區三小區八王子驛方擴社々則改正ノ儀先般出願ノ節別紙大藏省御指令ニ依レハ人民相對ヲ以テ結社致シ方擴ノ社名ヲ以テ營業候ハ不苦候得共官許ニ付スヘキ筋ニ無之候得ハ全ク人民私稱ニ付學校病院其他道路橋梁及ヒ窮民救助ノ爲メ出金願書等社名ヲ署シ官廳へ差出候ハ不相成儀ニ可有之哉若シ然ラハ社名ヲ以テ賞與取計候儀モ難相成儀ト相心得可然哉相伺候也(別紙除之)

(指令) 明治十年十月廿九日 書面官許ヲ得テ設立シタル會社ニ非スト雖モ結社屆濟ノ上ハ公文書ニ其社名ヲ相用ト不苦儀ト可相心得事

○服制之部

第四十三號 和歌山縣伺 十月五日

本年(九月)第六十五號公達第二條但書判任官以下ハ各廳長官ノ見込ニヨリ羽織袴ヲ以テ代用爲致不苦ト有之右ハ判任等外準官吏其他一時雇使等ノ者ニ限リ候哉又ハ官吏スラ如此ノ次第ニ付一般人民モ其事ノ公私ヲ問ハス單ニ此成例ニ準シ可然哉果シテ然ラハ其旨管下へ布達致シ不苦候哉相伺候也

(指令) 明治十年十月廿六日 伺ノ趣本年太政官第六十五号達書第二項官吏通

常禮服用ノ場合云々ト有之候ニ付ハ官吏ノミニ限リ候儀ニテ一般人民へ布達等致スヘキ儀ニ無之儀ト可相心得事 但各廳長官ノ見込ニヨリ判任官以下一時雇使等ニ限リ羽織袴代用ノ儀ハ伺ノ通

第四十三號 高根縣伺 九月廿六日

本年第六十五號公達第一款但書ニ朝儀ニ係リ白鼠色ノ下衣袴着用ノ節ハ式部寮ヨリ可及通知ト有之右ハ輦下ニ於テ臨時行ハセラル、處ノ朝儀ニ係リ相用候儀ニテ壬申第七十三號公達大禮服用日ノ儀ハ渾テ黒色相用候儀ト相心得可然哉相伺候也

(指令) 明治十年十月三十日 書面伺之通

○民事之部

第四十二號 山形縣伺 十月九日

本年六月四日附テ以テ漢方醫試驗ノ儀ニ付相伺候處昨九年乙第五號御達科目ノ問題ニ應答難致者ハ開業難開届ト可相心得旨御指令有之然ルニ治療上ハ依然タル漢家ノ舊方ヲ相用候得共或ハ右問題ニ應答シ得ル者モ有之右等ノ類ハ開業御聞届相成候儀ニ可有之相伺候也

(指令) 十年一月十七日 書面伺醫術開業試驗願出ルモノハ誰彼ヲ問ハス例規試驗ヲ遂ケ具狀可致事

第四十二號 靜岡縣伺

九月一日

明治九年御省甲第四號御布達ニ依リ警部并巡查持區巡視制服着用ノ者ニ限リ道路橋梁渡津等賃錢不差出ハ勿論ニ候得共特リ縣廳第四課詰警部ハ持區ハ無之候得共時々取締ノ爲メ管内警察各本分署等巡視候儀ニ付本課詰警部ニ限リ管内一般持區ト見做シ右賃錢附與不致事ト相心得可然哉相伺候也

(指令) 十年十月十八日

書面之趣ハ賃錢附與致候儀ト可心得事

第四十二號 福島縣伺

八月二十三日

本年第十六號公達ノ趣モ有之人民召喚狀及ヒ督促狀ノ類モ官費ニ相立ヘキ儀ニ有之候處裁判所ヨリ人民呼出狀督促狀ノ類ハ明治九年御省日誌第二十五號ニ掲載セラル丙第拾八號御達ノ通民費ト相心得可然哉且又無罪解放ニ歸セシ者最初ノ呼出郵稅或ハ脚夫賃ノ儀モ自辨ト相心得ヘシ哉將タ裁判所ヨリ仕拂可相成哉相伺候也

(指令) 十年十月十九日

丙第拾八號達民費ハ自費ノ儀ト可相心得尤民事ニ限リ

候事 無罪解放ニ歸スルモノハ最初ヨリ呼出狀遞送費脚夫賃共其名喚セル官廳ヨリ可仕拂事

第四十三號 宮城縣伺

十月十五日

戊辰十一月(十九日)御達ニ諸藩共國名等ヲ以テ姓氏ニ替ヘ相用候得共向後總テ本姓ヲ可稱云々又庚午十一月(十九日)公布ニ國名并舊官名ヲ以テ通稱ニ相用候儀被

停候ト有之姓氏ニ國名(近江大和伊勢陸奥ノ類)ヲ用ヒ又ハ通稱ニ國名官名ヲ音訓互續(武藏大藏)ノ類相用ユル等モ改稱爲致可然哉相伺候也

(指令) 明治十年十月三十日

書面伺ノ趣姓氏ニ用ヒ來リシ國名ハ不苦候得共

名稱ニ國名官名等ヲ用ヒ候儀ハ難相成候事 但武藏大藏等ノ音訓異ナル者ハ改名ニ及ハス候事

第四十三號 兵庫縣伺

十月九日

本年第四十三號公布社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、キ社寺(氏子檀家)總代人二名以上連署可致ト有之神社ハ無氏子ト雖モ崇敬人ハ可有之ヲ以テ本年御省甲第十三號府縣社以下神社什物取締リ心得書末文(神官並氏子)割注ニ照準シ崇敬人ニ連署可爲致候得共獨リ寺院ニ至リテハ無檀且信仰人無之向モ往々有之右等ハ本寺法類ヨリ連署爲致可然哉相伺候也

(指令) 明治十年十月三十日

書面無氏子神社ノ儀ハ伺ノ通無檀寺院ハ信仰人

之有無ニ拘ハラス本寺若クハ法類ノ連署ヲ要シ候儀ト可心得事

第四十三號 初木縣伺

十月十九日

一新規開業ノ醫師學科試驗ノ儀ハ左ノ通十四問題ト定メ一問題ニ付三時間ヲ限リトシ毎日二問題ツ、試験シ一週間ヲ以テ卒業候様取計可然哉

第一 物理學大意 一題

第二 化學大意 一題



- 第三 解剖學大意 二題
- 第四 生理學大意 二題
- 第五 病理學大意 二題
- 第六 藥劑學大意 二題
- 第七 內外科大意 四題

一若シ前條ノ通ニテ不都合ノ儀無之候ハ、各問題ノ對策書一定ノ時間(即一問題三時間)中ニ筆記シ得サルトキハ直チニ其未成書ヲ領収シ可然哉又ハ相當ノ時間ヲ猶豫シ不苦儀ニ可有之哉 但相當ノ延刻ヲ與ヘ不苦儀ニ候ハ、其延刻ノ旨ヲ對策書ヘ附箋捺印爲致他ノ時間中ニ筆記シ得ル者ト區分可然哉 右兩件相伺候也

(指令) 明治十年十月三十一日 書面伺ノ通 但時間中筆記シ了ラサル對策ハ其譯ヲ記シ時間ヲ猶豫スヘカラサル事

○職務罰例之部

第四十二號 福岡縣伺 七月七日

第一條 十七日以後ニ(月給渡濟ノ後)罰俸申付候キハ其月(罰文ヲ付セシ月)ヨリ月俸ノ半額ヲ収メシムルハ勿論ナルモ若シ延期ヲ乞願スルキハ聽許シ其翌月ヨリ追徴可然哉 第二條 既ニ延期ヲ聽許シ翌月十六日後ニ免職又ハ辭職スルキハ前月徴収ノ分共都合一ヶ月分月俸ノ全額ヲ一度ニ収メサセ可然哉 第三條 罰俸領置中十五日以前ニ免職又ハ辭職死亡スル者等ノ儀ハ尙ホ半ヶ月分アルモ該月(解職ノ月)分ハ追徴セス可然哉將々其半ヶ月分即チ其俸ノ半額ヲ追徴スヘキ哉(第一

月ニ罰俸三ヶ月ヲ申付已ニ五ヶ月間其俸ノ半額ツ、二ヶ月半分領置シ第六月十五日以前ニ解官スル之類) 第四條 十六日以後ニ採用ノ官吏同月中ニ罰俸申付候キハ其翌月ヨリ月俸ノ半額ヲ領置可然哉 右件々相伺候也

(指令) 十年十月十六日 伺ノ條々左ノ通可相心得事○第一條月俸支給後ノ罰俸申渡ニ係ルモノハ其翌月ノ俸ヨリ追徴スルヲ例トス故ニ延期ヲ乞願スヘカラス而テ猶其餘ノ延期ヲ乞願スル者アリト雖ヒ之ヲ聽許スヘカラス○第二條延期ヲ許ササルヲ以テ一月分ノ俸ヲ全奪スルノ理ナシ○第三條總テ給與スル半額ヲ追徴ス

第四條伺ノ通

第四十二號

岩手縣伺

八月十五日

第一條 獄丁守卒其他雇等ノ名義ヲ以テ無等出仕申付候者公罪ヲ犯シタルキハ昨九年六月(八日)太政官御達第一條ニ據リ適宜處分シ其免職ニ係リ再ヒ収用スルモ亦適宜取計フヘキハ勿論ノ儀ニシテ既ニ昨九年御省日誌第五十六號福岡縣伺第五條御指令ノ趣モ有之然ルニ同年御省日誌第五十八號京都府伺第七條御指令ニ二年ノ後ヲ俟ツヘシト有之福岡縣伺へ御指令ト枝梧スル所アル哉ニ被存如何相心得可然哉 第二條昨九年御省日誌第五十二號秋田縣伺第六條御指令ニ過失發覺セシキノ現俸ヲ追スヘシト有之又同第五十八號京都府伺第八條但書ノ御指令ニハ伺ノ通ト有之右府縣ヨリ伺ノ趣ハ均ク罪科發覺スルモ追俸ノ處分ニテ更ニ差違ナシ然ル

ニ一ハ昇官ナレハ舊時ヲ以テシ降官ナレハ現時ヲ以テシテ一ハ現俸ヲ追スル旨ノ御指令アリ如何相心得可然哉

(指令) 十年十月十七日 伺ノ條々左ノ通可相心得事○第一條長官ノ見込ヲ以テ適宜處分ヲ行フヘキ者ハ其収用モ又適宜ニ任スルヲ福岡縣指令ノ通准官吏等外以上官職ニ在テ免職セラレシ者ハ後ヲ雇ニ収用スルモ仍ホ二年ヲ俟ツヘキ儀ハ京都府指令ノ通○第二條京都府指令ノ通 但秋田縣指令ハ既ニ更正ノ儀相達置候事 第四十二號 秋田縣伺 九月三日

第一條 官吏懲戒例第四條第二項追俸ノ法ハ毎月俸給ノ半ヲ領置スルモノニテ其領置ノ日限ハ條中明文ナシト雖モ元來其月俸之中ヨリ奪フモノナレハ月俸規則第一條月給々與ノ日ヲ以テ追徵可然哉 但罰俸未タ完納セサル以前他方出張ヲ命スル者月俸規則第七條ニ據リ月給三ヶ月マテ繰上ケ支給スルキハ其支給ノ日ヲ以テ追徵可然哉 第二條 明治九年御省日誌第五十八號京都府伺第八條御指令ニ罰俸未タ完納セサルニ免職或ハ病死スル者其追徵ヲ止ムト有之譬ヘハ例ニヨリ罰俸三ヶ月ニ係ルモノ毎月其半ヲ領置シテ五ヶ月分マテ追スルノ末六ヶ月目ニ當リ免職或ハ病死ノ者ハ其追徵ヲ止ムトノ趣意ニ可有之哉 第三條 其追徵ヲ止ムルハ病死或ハ免職ノ爲メ其罪不問ニ付スルノ類ニテ其月(病死又ハ免職ノ月)給與スル所ノ月俸有無ニ關セサル儀ニ可有之哉 第四條 果シテ然ラハ其月初メ或ハ前月末

ニ在テ罰俸處分スル者第一條ノ如ク月俸給與ノ日ニ至ラスシテ其俸未タ領置セサル者十六日ニ於テ免職又ハ病死ノ節ハ成規ノ通り月給全額ヲ給與スルトモ免職病死ノ廉ナリテ前條同様是又該御指令ニ準據追徵ヲ止メ可然哉 但第一條但書ノ通り追徵セシ後本條ノ場合ニ至ル者ハ其既ニ領置ノ金員下戻シ可然哉 第五條 若シ然ラス免職又ハ病死ノ者在職中ノ過失發覺スルトモ其罪ヲ問ハサルハ例ニ依リ免スヘクノ職徵ス可キノ俸ナキカ爲ナリ又前御指令ノ如キハ其幾分ヲ追徵シテ全額未タ完納ナラサル内免職病死其追徵スヘキ俸ナキ者ニ限ル筋ニテ十六日免職又ハ病死ノ者ハ其月々給全額ヲ給シテ現ニ徵スヘキノ俸アリ故ニ此限ニ非サル者トセハ十五日以前免職又ハ病死ノ者固ヨリ半月ノ俸ヲ給スルヲ以テ自然其半額(月給四分ノ一)ヲ追スルノ筋ニ可有之哉 右件々相伺候也

(指令) 十年十月十七日 伺ノ條々左ノ通可相心得事○第一條并但書及第二條伺ノ通○第三條追徵ヲ止ムルトハ免職或ハ病死ノ後チニ至リテ追徵セサル儀ニテ其免職或ハ病死以前ノ分ニ當リ給與スヘキ月俸アルモノチ徵収セサルノ謂ニアラス若シ免職或ハ病死以前ノ分ニ當リ給與スヘキ月俸アレハ仍ホ其一半ヲ給スヘシ 第四條并但書及第五條第三條指令ノ主儀ニ依リ候儀ト相心得ヘシ

第四十二號 兵庫縣伺 九月二十四日 免職官吏再ヒ採用ノ儀ハ昨九年(四月)太政官御達懲戒處分心得ニ依リ懲戒ノ爲メ

免職スルモノハ二ケ年以上經過ノ後舊本屬長官へ前奉職中不都合ノ次第問合ノ上  
取捨致シ候ニ付假令本人於テ其情ヲ匿サント欲スルモ得サレ儀ニ是レアリ而シテ  
獨リ神官僧侶ノ如キハ甲縣下ニ於テ免職相成候時ハ直ニ乙縣下ニ涉リ再ヒ奉職セ  
ントシテ其情ヲ匿シ出願スル者有之右等ハ舊教部省達ニ照準シ別段舊本屬長官ニ  
通牒シ其意見ヲ問フニ及ハス直ニ収用可然哉相伺候也

(指令) 十年十月廿日 書面ノ趣會テ官員若クハ神官タリシ者へ祠官祠掌申付ノ  
節ハ該在職中不都合ノ有無舊本屬廳へ掛合可申住職申付ノ節ハ不及其儀候事

第四十二號 三重縣伺 五月廿九日

甲物品ヲ遺失シ未タ官ニ訴ヘサル中乙之ヲ拾得テ警察出張所ニ訴ヘテ該所ニ領置  
セリ即日丙之ヲ探知シ詐リ訴テ曰ク某ノ物品ハ自分ノ遺失セシニ付下付アテ  
ヲ乞フト該吏其眞偽及ヒ住所姓名ヲ細查セス直ニ之ヲ下付ス後甲乙ト連訴シテ曰  
ク曩ニ拾得セシ物品ハ甲ノ所有ニ付下付セラレシヲ覺知スト雖モ既ニ僞事主ノ所在ヲ知ラサレ  
確實ニテ始メテ丙ニ詐欺セラレシヲ覺知スト雖モ既ニ僞事主ノ所在ヲ知ラサレ  
ハ取戻スヲ得ス該吏乃チ待罪書ヲ差出ニ付之ヲ懲罰スル論ヲ竣スト雖モ眞事主  
ノ損害ニ至テハ該吏ヲシテ償ハシム可キ哉官ヨリ賠償ス可哉或ハ事主ノ損害トナ  
スヘキ哉相伺候也

(指令) 十年九月廿四日 伺ノ赴當該官吏ヲ懲罰ニ處シ物品ハ賠償ニ不及儀ト可

### 心得事

#### ○警察之部

第四十二號 那馬縣伺 十月十一日

從前軍人軍屬ハ府縣繼テ以テ護送シ脱檻越獄囚ノ類ハ審糾スヘキ府縣ヨリ受取人  
差出來候處本年七月太政官第四十九號ヲ以テ罪囚警察署遞傳護送ノ儀御達相成候  
ニ付テハ右御達中其他ノ罪囚トハ脱檻獄囚ハ勿論一般ノ罪囚迄モ含蓄スル儀ト相  
心得可然哉相伺候也

(指令) 十年十月廿二日 書面軍人軍屬ニ限ラヌ一般罪囚ノ儀ト相心得事

#### ○教法之部

第四十二號 愛媛縣伺 九月二十八日

禁厭祈禳ノ儀ハ神官僧侶ノ外ハ教導職タリトモ執行不相成儀ト相心得可然哉相伺  
候也

(指令) 十年十月十六日 書面伺ノ趣ハ教導職タル者其宗儀ヲ以テ禁厭祈禳執行

候儀ハ不苦候條舊教部省七年第二十二號達書ノ通可相心得事

第四十三號 和歌山縣伺 十月九日

一寺住職ノ僧侶本山又ハ該宗中教院等ニ於テ寄留勤學致度旨願出候内其寄留ノ期  
限或ハ三年ノ久シキニ至ル者有之右ハ檀家協議ノ上其法類等ニテ事務辨理候ハ、

其年月ノ長短ニ拘ラス聞届可然筋ト相心得候得共既ニ一寺ノ住職タル者繼令宗汝研究ノ篤志ニ出ルト雖モ本分ノ寺務ヲ闔キ數年他ニ寄留候モ又不都合ト相考候ニ付一旦辭職セシメ而シテ其志望ニ任セ候方穩當ニ有之ヘク哉相伺候也

(指令) 明治十年十月三十日 書面ノ趣檀家法類等協儀願出候節ハ聞届ケ不苦候事

○地理之部

第四十二號 東京府伺 六月二十八日

地租改正ニ付各官廳所用地ノ儀ハ其所管ニ於テ丈量等可取計管ニテ丈量入費ハ賦課不致候處所在ノ地ニ於テ分間圖或ハ地引帳ヘ登録ノ手數ハ民有地同様ノ儀ニ有之製圖器械并筆墨紙等ノ經費ヲ要シ候ニ付此等ノ費額ハ一般ニ賦課候方穩當ト存候得共爲念相伺候也

(指令) 十年十月十九日 書面民有地々租改正ニ付テノ費用ハ各管應用地ニ賦課候儀ハ難相成候事 但府廳ニ供用スヘキ管内地引圖地引帳等取調候費用ニ限リ區入費同様官廳用地ニ賦課候儀ト可相心得事

第四十三號 兵庫縣伺 十月十一日

官林落葉下草採取ノ儀官林調査御省出帳官員ヨリ保護上關係抄カラサル趣ヲ以テ協議之次第モ有之一般調査中見合置候處逐次整頓候ニ付テハ出願ノ村方モ有之且

落葉下草ハ農業上必需ノ品ニ付事實取調無余儀向ニ限リ一等官林及禁伐林ト雖モ五ヶ年以内ノ年季ヲ付シ開届候積取調可然哉相伺候也

(指令) 明治十年十月三十日 書面官林下草刈採ノ儀ハ從來慣行ニシテ將來林地ニ障礙無キ分ニ限リ差許候積料金并年季等取調可申出最落葉ハ樹木ノ培養トモ成ルヘキ者ニ付搔取不相成儀ト可相心得事

○會計支収之部

第四十二號 石川縣伺 十月五日

管下越中國新川郡常願寺川四月九日暴水之際一本木村外九ヶ村共種粍流没加フルニ同月廿七日再出水ニ付種粍代金拜借出願ノ儀過般上陳候處六月十六日附テ以テ右種粍代金三百十壹圓七十五錢六厘本年十二月限田方收獲米ヨリ一時返納ノ積貸下候云々御指揮ニヨリ其段及指令候處再三稀有之水災ニテ田畑荒蕪地ト相成農具迄モ流失シ方今活路ヲ失シ糊口ニ苦ミ候旨ニテ拜借金返納方ハ明治十一年ヨリ五ヶ年賦ノ儀別紙ノ通出願候ニ付尙ホ實際取調候處事狀相違モ無之願ノ通年賦土納御許可相成度別紙願書相添相伺候也(別紙除之)

(指令) 十年十月廿日 書面種粍代金年賦返納ノ儀難聞届若シ凶荒ニ罹リ種子ヲ併テ亡失候向ハ其事實詳細取調更ニ可伺出候事  
第四十三號 山口縣伺 十月十二日

道路橋梁其他官費修繕箇所風震洪水ノ爲メ破壊等縣廳ノ指令官吏ノ派出ヲ要スル  
時間ナク該所ノ區戶長最寄村方人民ヲ指揮シ臨機防禦ノ節ハ地民ニ在テモ其場ニ  
馳驅奔走スヘキハ固ヨリ當然ノ義務ニ付其勞力ノ爲メ別段人夫賃ハ給與スルニ不  
及儀ト相考候得共其際所用ノ土石木材孤儀綱疊等ノ費用ニ至テハ本來官繕ノ場所  
ニ付官費ニ相立ヘキ哉將タ急防ハ被害人民ノ義務トシテ尋常營繕ト異リ候儀ニ付  
其出費モ併セテ地民ノ義務トナシ官給セズ可然哉相同候也

(指令) 明治十年十月廿九日 書面急防費ノ儀ハ營繕所ト雖モ被害人民ニ於テ  
辨出候儀ト可相心得事

第四十三號 島根縣伺 五月四日

甲區裁判所ニテ裁判スヘキ犯罪者(失火等ニテ呼出シ拘留セサルモノ)ヲ警察官(檢事兼行ノ地方警察官)ニ於テ誤テ乙區裁判所ヘ求刑シ乙區裁判所モ亦其權外ナルニ心付カス被告人ヲ喚問スル後チ初メテ錯誤ナルヲ知ル時被告人ノ旅費日當ハ其呼出タル乙區裁判所ヨリ給與可然哉相同候也

(指令) 明治十年十月廿九日 書面伺之通

第四十三號 滋賀縣伺 十月十二日

本年第十六號公達ニ基キ管内布告ニ係ル諸費等從前民費ニ賦課セシ分本年七月以降總テ官費ニ御改定相成候ニ付テハ揭示書張替手数料モ亦官費ニ相立テサルヲ得

ス之ニ依テ其費額一周歲ノ豫算金二十圓ヲ以テ大藏省ヘ開申ニ及ヒ候處該費ハ貴省ヘ照會ノ上申出ヘキ旨達有之候抑モ該費ハ諸布告ノ内金券或ハ郵便切手ノ見本等ノ如キ其數僅少ニシテ一般ヘ配達相成カタキ故人民輻湊ノ市村ヘ揭示スルニ付其之ヲ貼附亦ハ除却スル手数料ニシテ畢竟諸布告ヲ配達スル賃金ニ異ナラサルヲ以テ官費ニ相立可然儀ト相考候得共大藏省ヨリ達ノ次第モ有之ニ付相同候也

○戶籍之部

第四十二號 新潟縣伺 八月廿日

監獄則興造第十條懲治檻ノ部ニ脱籍無產復籍シカタキ者本刑懲役ノ限滿チシ後ハ皆此檻ニ移シ罪囚ト區別シ工藝ヲ習慣セシメ獨立活計ノ目途ヲ立然ル後本人望ミノ地ヘ入籍セシムト有之本刑懲役滿限ノ者入籍ノ際地元村町ニ於テ苦情申立入籍ヲ拒ム分ハ終身無籍ノ姿ニ有之戶籍取扱及ヒ戶口總計方等如何相心得可然哉相同候也

(指令) 十年十月廿四日 書面伺ノ趣區内町村都々人民ニ於テ他人ノ入籍ヲ拒ム筋ハ無之候條入籍ニ差支無之儀ト可相心得事

第四十三號 和歌山縣伺 八月十日

大坂港在留日耳曼國人ハイトケンヘルナル者嘗テ縣下平民三毛利兵衛ナル者ニ被  
雇中和歌山本町四丁目平民藤並トミニ女トキナル者ヲ雇入候儘今以テ召連同港ニ  
居留致候趣ノ處別紙寫ノ通大坂府ヨリ今般私生ノ男子分娩致候ニ付藤並傳三郎ト  
稱シ候段トキヨリ届出候旨通知相成候依テハ明治六年第二十一號公布ニ準據シ其  
生兒ハ婦女ノ戸籍ニ編入致シ可然哉尤該女ハ普通雇人ト異ナリ恰モ侍妾ノ姿ナル  
趣ニテ自然如是分娩致候者ナルヘシ若シ果シテ同人ノ子ト見認メ候儀ナレハ該公  
布但書ノ旨趣ニ相當スル者ニハ候得共本人ノ如キハ素ヨリ御國法外ノ儀ニ付公布  
如何ニ關セス如斯届出候儀ト存候間一應ケンハルヘ辱問ノ上其答出ニ依リ編籍方  
取計可然哉相伺候也(別紙除之)

(指令) 明治十年十月三十日 書面ノ趣尋問等ニ及ハス候條届出ノ通編籍可致事

○租税之部

第四十二號 三重縣伺 十月一日

年限ヲ定メ官地拜借ノ田畑天災ニ罹リ該地損潰容易起返シカタク又ハ堤外流作田  
畑ニ係ル如キハ全ク流亡ニ屬スルモノアリ本年第八號公布民有荒地處分規則ニ荒  
地免稅ノ年期ハ損害ノ年ヨリ相當之年期ヲ定ムヘキ旨有之ニ付該地拜借料ニ實地  
検査ノ上損害ノ年ヨリ免除ノ積リ取調可然哉相伺候也

(指令) 十年十月廿三日 書面伺ノ通 但處分ノ時々實地具狀可伺出事

○勸業之部

第四十二號 宮城縣伺 十月十三日

藥湯營業許可ノ者戸外ニ掲クル看板ハ賣藥營業看板ニ比準シ(免許)藥湯營業ト  
書載可然哉相伺候也

(指令) 十年十月十九日 書面伺ノ通

特典之部

第四十八號 十月十一日

熊本縣

(第五百八十一) 薩賊亂入ノ際奇特ノ義有之懲役人特典減等伺  
當縣懲役人小山卯七外七十九人ノ者共兼テ福岡縣下筑後國三池郡當縣懲役分場へ  
差遣シ石炭坑ニ於テ驅役申付置候處孰レモ御旨趣ヲ奉體シ先非悔悟シ勉勵就役能  
在。處本年二月薩賊當縣下へ亂入不容易形勢ニ付熊本懲役場ハ所々へ移轉シ該場  
ノ役囚ハ悉皆二月廿二日ヲ以テ第四大區五小區木山町ニ於テ一時解散シ然ル處賊  
勢増々旺盛ニ立至リ玉名郡高瀬口(三池郡ヨリ距離凡六里ニ過キス)戰地ノ砲聲天  
地ニ轟キ分場近傍ノ人民頗ル狼狽ヲ極メ所々へ散亂シ素ヨリ役囚モ隨テ狼狽不一

形加フルニ本場ニ於テ解放致シタル役囚ノ内分場ノ近傍ヘ趣キ頻リニ該場構外ヲ徘徊履檻起獄等ヲ煽動スル景況アリト雖モ始終不變逐日該所ヘ賊亂入ノ萌シ有之ニ依リ二月廿八日一時福岡縣久留米支廳(三池ヨリ距離十一里余)ノ監獄ヲ借リ請ケ役囚一同遠路移轉セシノ其路次掛官員人少自然守戒ノ不嚴其間隙ヲ伺ヒ十分逃走可成ノ處彼等能ク謹慎シ無恙移轉其後熊本ヘ引揚ケ直チニ道路修繕或ハ人民ノ雇夫ニ使役スルモ大ニ勉勵罷在ル段全ク先非悟悔ノ跡判然セリ寔ニ神妙ノ至リ依テ別紙口供(畧之)ノ通ニ付特別ヲ以テ各本罪ヨリ一等ヲ減セラレ候様有之度然ルモハ以來ノ勸奨トモ可相成彼等ニ於テハ屹度御旨意ヲ奉體一層謹慎就役勉勵可致此段相伺候也

(指令) 十月三十日 伺ノ趣中山卯七外七十九人特典ヲ以テ各本罪ニ一等ヲ減ス  
第四十八號 十月十七日 山口縣第十一大區十一小區

(第五百八十一) 外役中同囚ノ逃走スルヲ捕獲シタル者特典減等伺  
山口縣第十一大區十一小區  
周防國吉敷郡佐山村  
平民  
同縣第二十大區一小區  
明治七年十一月十三日犯姦ノ科ニ依リ懲役三年ニ處セラル  
松永 兵藏

同七年九月九日竊盜ノ科ニ依リ懲役十年ニ處セラル  
長門國阿武郡明木村  
平民  
鶴屋 久藏

同八年十月十八日詐欺取財ノ科ニ依リ懲役十年ニ處セラル  
同縣第七大區六小區  
周防國都濃郡久米村  
平民  
藤井 治作  
右ノ者共儀頭書ノ通懲役處刑中本年九月九日同囚菅田儀介ノ外役先ヘ立越ス途中ヨリ逃走スルヲ追捕トシテ獄丁ニ隨從各地搜索遂ニ能ク捕獲セシ者ニシテ奇特ノ事ニ付特典ヲ以テ各本罪ニ一等ヲ減セラレ候様致度依テ掛吏員申立書本人口供共(畧之)相添此段相伺候也

(指令) 十月三十日 伺ノ趣懲役人松永兵藏外二名特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス  
但松永兵藏儀ハ己ニ役過スルヲ以テ直ニ放免スヘシ  
第四十八號 十月十九日 長野縣  
第五百八十二) 同囚ノ縊死セントスルヲ阻救シタル者特典減等伺  
信濃國佐久郡小諸市町  
平民  
明治四年九月廿五日告藩ノ紙  
幣ヲ僞造スル匠人タル科  
平民

指令錄刑事



一 準流十年

奥田 幸之助

右ノ者儀東京府士族加藤利一厄介兄無祿士族懲役人加藤利元ナル者熱病ヲ患ヒ病室於テ療養中本月六日夜縊死セントスルヲ救援候段奇特ノ義ニ付特典ヲ以テ相當ノ御處分相成度別紙口供(略之)相副此段相伺候也

(指令) 十月三十日 伺ノ趣準流人奥田幸之助特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス

第四十八號 十月二十二日 愛知縣

(第五百八十三) 同囚ノ放火ヲ企ツルヲ首報スル懲役人特典減等伺

三河國幡豆郡小島村

棚本文兵衛附籍平民

板倉 小松

右ノ者本年七月十一日放火罪ヲ犯シ本罪ニ二等ヲ減シ懲後十年ニ處セラレ役限内同八月中同因糠谷庄之助ナル者外一人ト謀リ役場へ放火シ其擧ニ乘シ逃走セント既ニ九月二日竊ニ炊室ヨリ火種ヲ工役場へ持行タルニ其種消滅シテ事ヲ果サス尚ホ九月九日小松ヲ誘ヒ硫黃ヲ以テ放火セント企ツルヲ小松其意ニ應セス直チニ首報スルヨリ終ニ場内燒燬ノ難ヲ免レ候段殊勝ノ儀ニ付特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減セラレ度因テ獄司具申書並口供(略之)相添此段相伺候也

(指令) 十月三十日 伺ノ趣懲役人板倉小松儀特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス

第四十九號 十月十六日

熊本縣

(第五百八十五) 賊徒亂入ノ際解放ノ役囚復歸就役者特典減等伺

本年二月鹿兒島縣賊徒亂入ノ際當縣懲役人移轉并解放ノ儀ハ兼テ御届仕置候通リニ有之然ルニ該時ノ事タルヤ賊勢頗ル猖獗爲メニ屢々囚場ヲ各所ニ移シ其路次或ハ露宿スル等其間隙ヲ窺ヒ十分逃走モ可相成處彼等能ク謹慎シ毫モ其萌シ無之右解放後島喜市儀ハ縣下平定ニ從ヒ復歸致シ高村九十郎外六人ハ官軍進入ニ付テ官軍ノ人夫ニ被使役小島熊彦外二人ハ自宅等へ引取り始末謹慎ノ者ニ有之平定ノ上ハ早々復歸ノ存意萬々有之ト雖モ各警視分署或ハ哨兵線等ニ於テ役囚ノ名義ノミヲ以テ一時拘引逐日平定ノ上各所ヨリ送り來候ニ付精々取糺ス處會テ犯罪ノ跡無之直チニ就役申付孰レモ專ラ勉勵致シ居候段確然前非悔悟ノ跡判然セリ尤該囚等ハ復歸就役ノ遲速ノミニテ彙ニ上申減等御聞濟ニ相成候役囚和田信平外四十八人ノ者ト同様ニ有之依テ別紙(略之)口供ノ通ニ付特別ヲ以テ各原罪ニ一等被減候様致度此段上申候也

(指令) 十年十一月二日 上申ノ趣懲役人島喜市外十名特典ヲ以テ各本罪ニ一等ヲ減ス

第四十九號 十月十九日

山口縣

(第五百八十六) 同囚ノ驅役場ヨリ逃走スルヲ捕獲セシ者特典減等伺

指令錄事

山口縣第四大區二小區  
周防國玖珂郡日積村平民  
明治六年七月十八日強姦ノ科ニ依リ懲役十年ニ處セラレ

同縣七大區八小區同國  
都濃郡須々萬村平民  
向井 數吉

嘉平治三男

同七年六月二日同科ニ依リ同十年ニ處セラレ

有馬作次郎

同縣第十一大區十三小區

同國吉敷郡西岐波村平民

坂口繁次郎

同十年二月十四日鬪毆ノ科ニ依リ同二年ニ處セラレ

右ノ者共儀頭書之通懲役處刑中本年九月十三日同囚岩崎米吉ノ管下三田尻驅役塲

ヨリ逃走スルヲ追捕トシテ看守ノ者ニ隨從各地搜索遂ニ能ク捕獲セシ者ニテ奇特

ノ事ニ付特典ヲ以テ各本罪ニ一等ヲ減セラレ候様致度依テ掛吏員申立書本人口供

共(略之)相添此段相伺候也

(指令) 十年十一月二日 伺之趣懲役人向井數吉外二名儀特典ヲ以テ各本罪ニ

一等ヲ減ス

第四十九號 十月二十六日

山 梨 縣

(第五百八十八) 同囚ノ逃走スルヲ差押ヘタル者特典減等伺

甲斐國八代郡上大鳥居村

市左衛門次男平民農

明治七年二月十八日竊盜四犯ノ科ニ依リ懲役終身ニ處ス 有泉安太郎

同國巨摩郡塚川村平民農

明治六年七月廿七日竊盜三犯之科ニ依リ懲役十年ニ處ス 武井喜代松

武藏國足立郡壹町目村

淺五郎長男平民農

明治九年十二月廿八日強盜律ニ依リ懲役二年半ニ處ス

橋本利吉

右ノ者共儀明治十年十月二日本縣第四區甲斐國山梨郡飯沼村地内荒川積ニ於テ外

役中懲役七年ノ囚山本伴藏同十年ノ囚秋山庄平等看守人ノ隙ヲ窺ヒ戒具ヲ脱シ逃

走候ヲ監護ノ獄丁ニ隨從追跡喜代松利吉ハ其塲ヨリ凡ソ八町計隔ル稻田ノ中ニ本

山伴藏之潛匿スルヲ見認メ兩人ニテ走付終ニ組留メ安太郎ハ秋山庄平ノ路傍荆棘

中ニ潛匿致居ヲ探リ得テ直チニ差押ヘ依テ兩囚共逃走スルヲ得サラシムル段殊勝

ノ事ニ付特典ヲ以テ各本罪ニ一等ヲ減度即監獄署詰警部具狀書(畧之)相添此段

相伺候也

(指令) 十年十一月二日 伺之趣懲役人有泉安太郎外二名特典ヲ以テ各本罪ニ

指令錄刑事

一等ヲ減ス

第四十九號 十月十九日

福島縣

(第五百九十一)

逃走囚ヲ見認探偵密告其機ヲ誤ラサル懲役人特典減等伺

明治七年十二月九日宣告

岩代國安達郡本宮北町平民

懲役終身

偽造寶貨

伊藤 勘助

明治十年六月廿八日宣告

四十六年九月

同 十年

役場火災ノ際逸出セス消救スルニ依リ減一等

右ノ者儀外役先ニ於テ明治九年四月役場逃走セシ齋藤寅松ニ似寄タルヲ以テ不審ニ見認メ猶其容姿ヲ確認スルニ相違ナキヲ以テ直チニ捕得セントスルモ彼レ逸足シテ影跡ヲ失フニ至ラントス時ニ思ラク自分ハ後囚ノ身遠ク追捕スル能ハサルノミナラス万一彼ヨリ自分ヲ見認ムル時ハ遠ク遁走スルハ必然ナレハ幸ヒ茨木縣常陸國大山村平民町井忠助ニ行逢タルヲ以テ寅松ノ行先ヲ見認メ吳候様相頼ニ終ニ伊達郡長岡村小川久四郎方ニ潜伏致タル趣忠助ノ報ニヨリ直チニ等外一等出仕加藤幸助ニ密告致シタルニヨリ該犯捕縛致候右ハ至ク勘助平素心懸ノ厚キ所ヨリ出其身該犯ヲ捕得スル能ハサルハ不得止場合ニテ忠助ニ依頼シ終ニ官之ヲ捕縛スルヲ得タルハ勘助ノ捕得シタルト同一之功ニ可有之被考候條特典ヲ以テ減等相成度別紙監獄係ヨリノ具狀(畧之)相添此段奉伺候也

(指令) 十年十一月五日

伺ノ趣懲役人伊藤勘助特典ヲ以テ本罪ニ二等ヲ減ス

第五十號 十月三十日

岐阜縣

(第五百九十八)

同囚縊死セントスルヲ阻救シタル懲役人特典減等伺

岐阜縣美濃國可兒郡田中村平民

農業市兵衛次男井澤半次郎妻

明治十年九月廿六日決

當時懲役人

懲役六十日

キ シ ヨ

當二十二年二月

右ノ者未決在檻中當明治十年九月廿四日午前一時同囚美濃國惠那郡釜屋村平民長谷川作十郎妻ヲテナル者牢格子ニ細帶ヲ繫ケ自縊致シ居ルヲ認メタチヲ抱揚ケ大聲ニ呼立ルニ付牢番松田伊三郎外三人驅付俱々抱卸シタルニ既ニ絶脈ノ體ナルヲ以テ種々治療ヲ施シ終ニ蘇生ニ至ラシメ爾後尙タ子ノ自死ヲ斷念セサルヲ以テ深ク注意ヲ加ラル段別紙警察官吏申立書(畧之)等ノ通確實ニ付特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減セラレ候様致度本人口供(畧之)相添赦典ヲ乞候也

(指令) 十年十一月十三日

伺之趣懲役人キヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス

第五十號 九月十一日

福岡縣

(第五百九十九)

夫懲役ニ處セラレ其妻柔弱父母ヲ侍養スル能ハサル者ノ儀

ニ付伺

第一條 夫妻老疾セル父母ト共居スル者アリ其夫國事犯其他ノ犯罪ニ依リ懲役一  
 年以上の決ヲ經其妻柔弱ニシテ侍養ニ堪ヘサルトテ留養ヲ願フト雖モ律ニ於テ留  
 養ヲ聽スヘキ者ニ非サルヲ以テ其旨及指令ノ后柔弱ノ妻アルヨリ留養ヲ聽サレ  
 夫レカメ老疾セル父母殆シト飢渴ニ陷ラントス寧ロ妻ヲ離別シ留養ヲ願フニ如  
 カスト親族熟識ノ上離婚シ更ニ留養ヲ願フ者アリ右ハ素ヨリ留養ヲ願ハシカ  
 故サラニ離婚セシ者ト雖モ既ニ離婚ヲ爲シ他ニ侍養ニ堪ユルノ子孫ナキヲ以テ留  
 養ヲ聽スヘキ者ト相心得可然歟 第二條 前條ノ如キモ存留ヲ聽スヘキ者トセハ  
 夫ノ懲役ニ的決セラル、ヤ妻夫ノ懲役ヲ免レシメンカ爲メ一時離婚ヲナシ留養ヲ  
 聽サル、ナ俟テ再婚スル等其情弊極フ可カラサルニ至ランモ難計如此有心希圖  
 ルモノハ不應爲輕重ニ問フヘキモノト相心得可然歟

(指令) 十年十一月十六日 第一條 伺ノ趣留養ヲ聽スコト心得ル者ト心得ヘシ  
 但尙面ノ如ク妻柔弱侍養ニ堪ヘス夫ノ留養ヲ願フハ必シモ之ヲ拒止セズ能ク其  
 事情ヲ糾シ果シテ侍養ニ堪ヘサルノ確證アルハ其由ヲ該裁判所ニ具申シ處分ヲ  
 受クヘシ 第二條 伺面ノ如キハ第一條指令但書ノ通處分スルハ侍養ニ堪ヘサ  
 ルヲ以テ離婚シ又再婚ヲ願フノ弊ハアラサル可シ  
 第五十號 九月二十四日 石川縣

(第六百)

國史略中ニ之レアル持旨滅天下置囚罪二等ノ儀ニ付伺  
 山口縣平民石村貞一編輯東京府平民東生龜治郎出版候(明治新刻)國史略卷ノ第五  
 十二葉本年一月三十日ノ部ニ〇三十日天皇與皇太后皇后幸于泉涌寺齋祭後月輪東  
 山陵是日許民庶參拜以孝明天皇御年祭特旨滅天下罪囚罪二等トアリ右特旨滅等ノ  
 儀當縣於テハ未タ其公布ヲ承知不致儀ニ付無根ノ妄說トハ致想像候ヘ尺役囚中新  
 入ノ者ヨリ右等ノ廉ヲ傳聞候様ノ儀有之時ハ大ニ囚心ニ關係有之候ニ付爲念相伺  
 候

(指令) 十年十一月十六日 伺ノ趣全ク妄說ニテ事實之ナキ儀ト可心得事  
 第五十號 十年 長野縣

(第六百五)

特典ヲ以テ減等相ナリシ役囚取扱方原役十年加役四年ノ囚二等ヲ減スル片之ヲ算  
 スル原役十年ヨリ減等シ五年ニ處シ加役ノ四年ヲ併セ九年トナシ可然儀ト心得居  
 候處御省指令錄本年第三十五號大坂府伺但書御指令ヲ閱スルニ萬之助減等ノ法ハ  
 原役加役ヲ併セ零四年ヲ除キ十年ヨリ一等ヲ減シ懲役七年ニ處ス云々トアリ譬ヘ  
 ハ原役五年加役四年ノモノハ係セテ九年ナルヲ以テ零二年ヲ除キ懲役七年ヨリ減  
 等スル儀ニ有之ヘシ果シテ然ラハ是迄減等相ナリシ者右御指令ニ依リ年限引直シ  
 候儀ト相心得可然哉

指令錄刑專

(指令) 十年十一月十六日 原役五年加役四年ノ囚人減等ノ儀ハ伺ノ通尤是迄  
赦典ヲ以テ減等セシ分モ右例ニ照シ不都合ト見込ム者ハ其縣ニ於テ年限引直スヘ  
シ

第五十號 十一月六日 茨城縣

(第六百六) 水中ニ轉溺スル者ヲ救援シタル懲役人特典減等伺

明治八年六月十日宣告 常陸國新治郡石岡町平民 中村 又吉

一懲役三年 賊盜律竊盜條 同國筑波郡面ノ井村平民 高谷 久治

明治八年九月廿九日宣告 同國筑波郡面ノ井村平民 高谷 久治

一懲役八十日 戶婚律逃亡條

右之者共儀客月二十二日管下常陸國新治郡土浦町道路爲修築外役爲致候處同國信  
太郡舟子村平民椎名總助次男政之助ナル者病氣爲療養同日午後一時頃醫師へ相越  
歸路ノ際土浦町字田町通行同所橋上ヨリ誤テ水中へ落テ溺没セントスルヲ見認メ  
直ニ飛入救援候ニ付遂ニ死ニ至ラシメヌ殊勝ノ旨ヲ以減等方別紙ノ通掛擔任ノ者  
ヨリ申出候間取調候處事實相違無之相聞他囚ノ龜鑑後來ノ獎勵ニモ關係候間特別  
之御詮議ヲ以本罪輕減相成候様仕度書類(零之)相副此段相伺候也

(指令) 十年十一月十六日 伺ノ趣懲役人中村又吉外一名特典ヲ以テ各本罪ニ  
一等ヲ減ス

○訴訟之部

第四十九號 十月三十日 神奈川縣

(第五百九十四) 連累人並証人等喚出後書式心得伺

明治八年御省達第一號各裁判所連累人並証人等喚出シ後達方書式有之右ハ犯罪者  
求刑後ノ處分ニ係ル儀ト相心得可然哉此段相伺候也

(指令) 十年十一月八日 伺ノ通

○上告之部

第五十號 十月二十四日 京都裁判所

(第五百九十六) 他ノ裁判所ノ處斷誤刑ニ係ル者改貼ノ儀ニ付伺

改定律例第三百十四條凡故サヲニ出入シ及ヒ入ル、ニ失スル罪人己ニ斷了ヲ經ル  
ト雖モ檢擧シテ改正スルヲ得ヘキ者ハ改正シ其出スニ失スル者ハ貼斷スルヲ得  
用ヒストアリ右故出入及ヒ入ル、ニ失スル者改貼方手續ノ儀假令ハ曩ニ他裁判所  
ニ於テ處刑ヲ經タル罪犯ノ其前科ノ宣告書ヲ查スルニ其犯狀ト刑名ト全ク齟齬致  
シ誤刑ニ涉ルモノト思量スルハ之ヲ原裁判所ニ照會シ口供及ヒ擬律案(一件書  
類ヲ要スルモノハ一件書類共)ヲ徴シ若其故出入ト見込ム者ハ之ヲ檢事ニ付シ其  
失入ニ止リ改正スルヲ得ヘキモノハ直ニ改貼シ其段原裁判所ニ通知ニ及ヒ且本  
省ヘハ其出入ノ次第共各具申スル義ト心得可然トハ存候得共此段爲念奉伺候也

指令錄刑事

(指令) 十年十一月十三日 伺之趣前宣告書ニ誤刑ノ廉アリト見込ム者ハ明治九年第八號布告并同年本省第七號第三十號達書ノ通り之ヲ檢事ニ付シ其上等裁判所檢事ニ差出ス儀ト心得ヘシ

○戸婚之部

第四十九號

十月十九日

靜岡縣

(第五百九十三) 原籍不分明ノ行倒或ハ縊死人等ヲ官司ニ申報セズ埋藏スル者處分方伺

人命律移地界内死屍第一項凡地界内ニ死屍アルチ里長地主鄰佑人官司ニ申報セズ輒シ他所ニ移シ及埋藏スル者杖七十云々トアリ條例第二百四條凡變死ニ係ル屍ハ官司ノ檢視ヲ經ルニ非レハ私擅ニ埋葬スルコトヲ聽サス違者ハ懲役四十日トアリ縱令ハ爰ニ原籍不分明ナル行倒或ハ縊死人アリ戶長地主鄰佑人等官司ニ告ケ檢視ヲ經レハ其手數ト幾分ノ村費(無籍人埋葬ノ費用ハ官司ヨリ下付スル成規ヲ知ラサル故ナルヘシ)ニ關スルヲ厭フノ痴情ヨリ私擅ニ仮埋スル者アリ之レ等ノ如キハ變屍ニ於テハ他ニ懼ル、所アリ深ク之ヲ陰匿センカ爲メ密ニ埋藏スル等ノ如キヲ以テ埋藏トナス可キ哉或ハ特ニ檢視ヲ不經式ヲ以テ葬ラサルチ概シテ埋藏トナス手畢竟屍ヲ陰匿スル情狀ニ付テ藏葬ノ區分有ル可キコト相考候得共疑議相決シ難ク候間至

急何分ノ御指令有之度此段相同候也

(指令) 十年十一月八日

移地界内死屍條ノ死屍ハ多シハ無主ノ屍ニシテ官司ニ申報セズ且葬式ヲ行ハサルニ依リ埋藏ト云ヒ例第二百四條ノ變死ニ係ル屍ハ必ス有主ノ屍ニシテ止タ官司ノ檢視ヲ經サル迄ニテ葬式ヲ行フニ依リ埋葬ト云フ因テ伺面ノ如キ官司ニ申報セズ輒シ埋藏スルトキハ移地界内死屍律ニ依テ處分スル義ト心得可シ

○斷獄審理ノ部

第四十九號

十月十二日

大坂裁判所檢事局

(第五百八十九) 囑託ヲ受ケ墮胎藥ヲ乞ヒ其用法等ヲ口授スル者處分方伺

爰ニ甲男乙女アリ私通ノ末乙懷妊ス甲乙商議之上墮胎藥ヲ丙醫ニ乞フ丙素ト甲ト相識ラサルチ以テ肯セス甲復タ丁女丙ト素ト舊知ナルチ知リ丁ニ依テ前藥ヲ乞フ是ニ於テ丙墮胎藥ヲ丁ニ與ヘ且用法及技術ヲ口授ス丁之チ甲ニ與ヘ用法技術丙ノ說ク所ヲ悉ク甲ニ授ク甲之チ乙ニ施スニ果シテ效アリ甲乙丙ハ乃チ例第四百十四條ニ問擬スル論ヲ待クサルコトニテ全体墮胎ハ人命ニ關シ他律ニ比スレハ稍嚴ニシテ丁モ亦墮胎ヲ助クル大ニカアルモナレハ墮胎律範圍内チ以テ論シ可然ト存候然ルニ明治七年本省日誌第三十七號瀧瀨縣伺墮胎ノ情ヲ知テ爲ニ技術ヲ施ス者紹介シ技術ヲ施サシムル者不應爲ニ問フヘキ旨ノ御指令相見候處紹介ト云ヘトモ其狀

指令錄刑事

情自カラ厚薄淺深アリテ一概ニ論シ難ク尤日誌ハ援引不相成御達モ有之拘泥致ス  
譯ニハ無之然ラハ本行丁ノ如キ犯人ハ墮胎藥ヲ賣ル者ノ從テ以テ論スルチ至當ト  
存候得共決シ兼相伺候

(指令) 十年十一月五日

伺之趣丁ハ例第百十四條ニ依リ從トナシテ論スル儀

ト可心得事

○犯則之部

第四十九號 十月六日

神奈川縣

(第五百八十四) 自用飲料ノ酒類ヲ他人へ賣渡ス者ノ儀ニ付伺

酒類稅則第三則第一條免許鑑札ヲ受ケス密造營業スル者トハ右チ營業スル者ノ事  
ニ有之ニ付自用飲料ノ爲メ醸造セシ分且同則第四條ニテ同様自用飲料トシテ他ヨ  
リ買入置タル分等各右ノ内チ他ヨリ臨時所望アルニ任セ賣渡タル者等ハ犯則ノ限  
ニハ無之儀ト相心得可然哉

(指令) 十年十一月一日

伺之趣營業者ト見認メサルキハ犯則ノ限ニアラサル儀  
ト心得可シ

第四十九號 十月二十三日

神奈川縣

(第五百八十七) 遊歩規程ヲ犯シタル清國人處分方伺

爰ニ外國人遊歩規程ヲ犯シタル一ノ清國人アリ外國人遊歩規程ノ義他ノ同盟數國

ニ於テハ條約中正條アリト雖モ特リ清國修好條規中正條ヲ見ス僅ニ通商章程第十  
三款中官吏商民遊歴ノ義ハ兩國何レモ仕來リノ規則ニ依ル云々ノ文字アリ右ノ數  
字ニ照據スル者トモハ無罪視スルチ得ヌ果シテ有罪ナレハ刑律中何ノ條ニ準據ス  
ルノ見込ヲ以テ求判可然哉

(指令) 十年十一月二日

伺之趣通商章程第十三款ニ違犯スル者違式ニ間フ義  
ト可心得事

○禁獄之部

第四十九號 十月十二日

警 視 局

(第五百九十) 禁獄者金銀貸借等ニ係リ親屬へ委任狀相渡ス儀ニ付伺

禁獄處刑中ノ者金銀其他ノ貸借等ニ係ル件ニ付親屬ノ者へ委任狀爲相渡候テ可然  
哉尤明治七年中東京府ヨリ懲役人ニテ同様ノ儀有之御省へ伺出候節懲役中ノ者ハ  
委任狀ヲ渡ス權アリ云々ト(日誌七年第百五十二號十丁)有之候得共元ヨリ該犯ノ  
如ハ刑ノ種類モ異リ候ニ付獄司調査ノ上委任狀爲相渡可然被存候間此段相伺候也

(指令) 十年十一月五日

伺ノ趣禁獄處刑中ノ者金銀其他貸借等ニ係ル事件ハ  
家族又ハ近親ノ内ニテ一切管理ス可キ筋ナレハ本人ヨリ委任狀相渡ニ及ハス親屬  
中ニテ取計フ儀ト可心得事 但シ出訴ノ節ハ訴狀ニ本人處刑中ノ旨ヲ記載シ親屬  
ヨリ直ニ訴出ル儀ト心得ヘシ

○賠償之部

第五十號 十月二十五日

愛媛縣

(第五百九十七) 賍金ヲ紛失シテ懲戒例ニ處セラレタル者賠償處分ノ儀ニ付伺  
盜犯取調中事主判然タル賍金所持スルニヨリ引揚ケ糊封シテ警察署内賍物入ニ藏  
メ置候處紛失シテ其所在ヲ知ラス百方搜索スレモ紛失ノ日限及事蹟等會テ憑ルハ  
キモノナシ因テ係官吏ヨリ進退伺出候ニ付懲戒例ニ照シ處分可及處右紛失金ノ始  
末ハ如何取計可然哉

(指令) 十年十一月十三日 懲戒例ニ依リ處分スル者ハ刑法ニ關セサルニヨリ

賠償ノ方モ其主管ノ廳ヘ伺出可シ

第五十號 十月二十日

三重縣

(第六百三) 宣告書遞送費辨償ノ儀ニ付伺

爰ニ犯罪人アリ裁判所ニ於テ審判ノ末其宣告書ヲ所属戶長ヘ向ケ遞送戶長ヨリ渡  
方可取計旨達相成候節該書遞送費ノ儀ハ裁判所ノ入費ニ相立候歟又ハ本人ヨリ辨  
償可爲致哉ノ旨伺出候者有之取或候ニ付此段相伺候

(指令) 十年十一月十六日 裁判所ノ入費タル儀ト心得可シ

○償役ノ部

第五十號 十月二十四日

熊本縣

(第六百四) 賊徒亂入ノ際解放ノ役囚不埒ノ所業有之者解放中ノ日數償役ノ儀伺

鹿兒島縣賊徒當縣下ヘ亂入ニ付テ本年二月廿二日一時解放ニ及候懲役人鎮定ノ上  
復歸候者ハ右解放中ノ日數ハ懲役限内算入ノ儀本年六月十二日付ヲ以テ相伺候處  
解放中ノ日數懲役限内ニ算入不苦旨電信ヲ以テ同月三十日御指令ノ通ニ有之然處  
同囚ノ内解放後賊徒ニ與シ或ハ竊盜犯罪等ノ者所々ニ於テ捕縛取調ノ上其筋ニテ  
夫々處分相成其後復歸致候役囚追々有之然ルニ彼等ハ縣下鎮定ヲ待テ復歸シタル  
役囚ト同視スヘキ者ニ無之解放後ハ謹慎罷在ルヘキ處前罪悔悟セズ不埒ノ所業有  
之者共ニ付本年二月廿二日ヨリ復歸當日迄ノ欠役日數ハ全ク償役爲致可申儀ハ當  
然ニ存候得共爲念此段相伺候也

(指令) 十年十一月十六日 伺ノ趣不埒ノ所業アレハ律例ニ照シ處分スルヲ得  
ルニ付自ラ復歸スル者ハ解放中ノ日數ハ役限内ニ算入スル儀ト心得可シ

○詐欺之部

第四十八號 八月三十一日

仙臺裁判所

(第五百七十九) 詐欺ノ情ヲ知ラス成規ニ依テ買得タル地券証追徴ノ儀ニ付伺  
于茲甲乙丙アリ甲所有ノ地券証ト實印トヲ乙預リ置ク處甲ノ承諾ヲ得テ其地券証  
ヲ抵當トシ丙ヨリ金圓ヲ借り然ル後乙擅ニ該地券ノ賣切証ヲ詐爲シ甲ヲ賣主トシ  
預リタル印ヲ押捺シ丙ニ付與シ乙又地處賣買願書ヘ甲ノ實印ヲ捺シ丙ト連署シ村



更ノ添書ヲ請得テ縣廳ニ申請シ丙ノ名前ニ書替ヲ受ク而シテ丙ヨリハ期限ヲ定メ  
 買ヒ戻シテ得可キ一証ヲ領置セリ既ニシテ期限過去レリ於是該地所全ク丙ノ所有  
 ニ屬ス甲初メテ之ヲ聞キ乙ヲ告訴ス依テ乙ノ罪ハ費用受寄財産律及ヒ詐爲私書係  
 ニ問擬シ二罪ノ内重キニ從テ論シ律ニ照シ地券ハ甲ニ追給スヘシト雖モ丙ニ在テ  
 ハ素乙ノ詐爲文書ニ係ルヲ知ラズ其地所賣買ノ手續キ成規ニ準依シ縣官ノ認得ヲ  
 經テ名前書替ヲ受ケシモノナレハ直テニ追徵スル較不穩ヲ覺ユ如此ハ乙ノ實力ヲ  
 追シテ甲ニ緝シ該地券ハ丙ニ所有セシメ可然手追徵方疑義ヲ生シ難決相伺候

(指令) 十月三十日 伺ノ通  
 第四十九號 十月廿九日

埼玉縣

(第五百九十二) 住趾姓名ヲ詐稱シテ投宿シ若干ノ物品ヲ預ケ置不圖立去ル  
 者ノ儀ニ付伺

爰ニ某甲ナルモノ何所居住何商ト稱シ乙某方ヘ投宿中携帶セシ物品若干ヲ乙ヘ預  
 ケ金員ヲ借受或ハ賣却後テ止宿料ヲ拂ハス不圖立出候儘數日相立ツト立歸ラサル  
 ニリ乙不審ヲ生シ其顛末ヲ訴出ルヲ以テ甲ノ所在ヲ該管轄廳ヘ照會スルニ右名稱  
 ノ者更ニ無之初メテ本貫氏名ヲ詐稱シテ止宿セシコト判然セリ因テ甲ノ止宿料ヲ拂  
 ハス逃レ去ル科ハ盜ニ准シテ論ス可キ者ト雖モ既ニ乙ヘ預ケ置ク物品并賣却セシ  
 物品ハ果シテ甲ノ所有品ナル乎將ク不正品ナル乎甲ヲ推糺セサレハ明瞭セサルモ

ノニ付甲ノ所在探偵中物品ハ揭示シ置キ甲捕ニ就カス或ハ又物主無之キハ其儘乙  
 へ給シ可然哉又ハ其物品ハ公賣シ曾テ乙ヨリ甲ヘ貸與シタル金額ヲ乙ヘ給シ剩ル  
 金アレハ賊ノ贓物ト見做シ没官致シ可然哉

(指令) 十年十一月五日 揭示期限一年ヲ過キ甲ノ所在ヲ不知又ハ物主モ不知

ニ於テハ貸金并止宿料ヲ乙ニ給シ其余ハ官ニ没スヘシ倘シ限内ニ物主相知レ候ハ  
 悉皆物主ニ還給シ貸金止宿料トモ乙ノ損失タル可シ

第五十號 十月十一日 滋賀縣

(第五百九十五) 他人ノ依頼ヲ受自分ノ名義ニテ地券ヲ申受其田地ヲ擅ニ他  
 ニ賣渡ス者求刑ノ儀ニ付伺

今茲ニ甲ナル者田地若干ヲ買取スルニ甲ノ村田地所在ノ地下遠隔ナルニ依リ乙ニ  
 託シ乙名義ヲ以テ買取シ地券モ又乙名義ヲ以テ申受乙ヨリ甲ヘハ田地代金受取更  
 ニ賣渡ス旨記載シタル証書(戸長ノ奥書割印ナシ)ヲ差入置ク處其後甲ノ代理人甲  
 ノ許諾ヲ受ケス右証書ヲ抵當トナシ丙ヨリ金圓ヲ借用シ期日ニ至テ返金セサルニ  
 リ丙該証書ヲ差押ヘ返サス乙此事ヲ聞キ右証書甲ノ手ニアラサルハ右田地他ヘ  
 賣却スルトモ甲ヨリ右田地取戻ヲ要求スルノ權ナカルヘシト思量シ丙ト謀リ右田  
 地ヲ低價ヨテ丙ニ賣却シ丙名義ノ地券ヲ申受ル由之ヲ官ニ訴ント欲スレモ証據ト  
 爲スヘキ証書ハ丙ノ手ニ渡リ止ムヲ得サルヨリ再ヒ金ヲ出シ右田地買戻サントテ

指令錄刑事

丙ニ未ム丙之ヲ幸トシ甲ヲ賺シ獲ニ抵當ニ預リ置タル証書ヲ取消サシメ内金若干受取更ニ甲へ賣渡シ地券ハ殘金ト引換ニ書改ムヘシ若違約スレハ書面金額五倍ノ謝金ヲ出スヘキ旨ノ約ヲ結ヒ其後甲前約ヲ履行セザルトテ丙甲ニ對シ前約ノ通り謝金受取度旨出訴ニ及フ右ハ明治八年第百六號公布ニ依ルキハ甲田地買取ノ際自分名義ヲ以テ地券申受ケサルニ依リ右田地所有之權ナシト雖ヒ乙ニ於テ其虛ニ乘シ契約ノ信義ヲ破リ擅ニ他ニ賣却スルノ理ナシ丙ニ於テモ亦甲買得ノ田地タルヲ知ル上ハ甲ニ告ケス買取スルノ理ナカルヘシ然ルニ利欲ニ迷ヒ乙ヨリ甲へ差入置タル証書ノ手元ニアルヲ幸ヒニ差押ヘ乙丙謀テ賣買ヲ遂ケ剩ヘ甲ヲ賺シ甲乙間ノ約定ヲ解カシメ若干ノ金圓ヲ受取ノミナラス尙其上無請過當ノ金圓ヲ貪ラントス其情狀局騙トモ云フ可キナリ然ニ右田地ハ甲ノ名義ヲ以テ地券ヲ申受ケサルニ依リ甲ニ於テ所有ノ權ナキヲ以テ乙之ヲ自由ニスルモ法律ノ許ノ所トナスハ抑人民所有ノ權利ヲ鞏固ナラシムル前顯第百六號公布ノ本旨ニ悖リ情法允當ナラサル様相考候依テ右等甲ノ買得地タル証迹判然タル上ハ公布ニ拘ララス乙ハ費用受寄財産條ニ照シ賣ル所ノ田地ヲ贓ニ計ヘ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ丙ハ乙ノ從トナシテ論シ其田地及丙ノ得ル所ノ財ハ追徴シテ甲ニ還給スルノ見込ヲ以テ取調裁判官へ送付シテ可然哉

(指令) 十年十一月十三日 伺ノ趣自己ノ名義ヲ以テ地券ヲ申請セサルモ至ク

甲ノ買得者タルヲ判然ナル上ハ乙丙共盜賣詐取ノ情ヲ免ヌカンス依テ犯罪ノ見込ヲ以テ求刑ニ及フ可シ

第五十號 十月一日

大坂裁判所檢事局

(第六百一) 抵當トナシタル動産ヲ擅ニ賣却スル者ノ儀ニ付伺

爰ニ甲動産ヲ抵當トナシ乙ヨリ金一百圓ヲ借ル然ルニ甲追々貧困ニ差迫リ乙ニ素ヨリ辨償ノ目途ナキモ獲ニ乙ニ抵當トナシ置タル物品ヲ丙ニ賣却其代價悉ク費用スル者アリ右ノ類不應爲ニ問ヒ金圓ノ還償ハ民事ノ處分ニ付スルノ例往々本省日誌ニ散見セリ然ルニ甲金圓還償ノ際ニ至リテ資力ナク身代限ヲ以テ返辨スルモ赤貧僅ニ一二圓ノ財産ノミニシテ乙ノ初メ甲若シ金圓辨償スルヲ能ハサルハ受取ル目的ノ物品ハ己ニ他人ノ有トナル然レハ乙ノ損害言フヘカラス抑抵當ト質入トハ其性質異ナリト雖モ抵當ノ物品自在ナラサルヲ質入ト何ソ異ナラン試ニ佛國刑法ヲ案スルニ第四百條第三四項ノ文意モ此ノ如キ犯人ハ盜罪ヲ以テ論スルカ如シ然レハ前文ノ犯人ハ重典賣田宅律ニ依テ論スルヲ至當ト存候得共疑義決兼候近來右等ノ犯人頻々有之旁相伺候

(指令) 十年十一月十六日 伺ノ趣償還ノ念アル者ハ不應爲ニ問ヒ詐欺ニ出ル者ハ詐欺取財ニ依テ論ス其情狀ヲ審訊シテ判決ヲ爲スハ裁判官ニ在リ檢事ニ於テハ有罪ト認ムルキハ見込ヲ以テ求刑ス可シ

指令錄刑事

○賊盜之部

第五十號 十月十一日

神奈川縣

(第六百二) 監守人無之物品ヲ盜取ル者又ハ士族ヲ本犯ノ申立ニヨリ平民ヲ

以テ處斷シタル儀ニ付伺

第一條 別段監守番及ヒ鎖鑰ノ施シ等ナキ物置小屋其他土藏等へ忍入物品ヲ盜ム者ノ如キハ竊盜條ニヨリ處分スル歟將テ盜田野穀麥條ニヨリ處分スル歟

第二條 前條ノ如キモノニテ監守人ナキモ鎖鑰ノ有無ト其結構ノ邸柵内外トニヨリ罪狀ヲ異ニスル儀ニモ有之哉 第三條 本縣四課第千九百一號伺へ本年十月

一日御指令ニ云々更ニ貼斷シ再度ノ犯罪ハ平民ヲ以テ論スル儀ト可心得事トアリ就テ考フルニ御指令ノ如キハ援引比付ハ不相成儀ニハ候得共明治八年御省日誌第

二十五號足柄裁判所伺及明治九年同第三十一號長崎裁判所等ノ御指令ニ抵觸シ一事兩岐ニ亘リ聊カ疑義ヲ生シ候右相伺候條至急御指揮有之度候也

(指令) 十年十一月十六日 第一條 竊盜條ニ依リ處分スヘシ 第二條

邸柵内外ニ依リ罪狀異ナルト雖モ監守人及ヒ鎖鑰ノ有無ニ依テ異ナルコトナシ

第三條 足柄長崎兩裁判所伺ハ本犯職業ヲ供出スルヲ平民ト信認シ審糾全ク盡サス官吏ノ疎漏ヨリ誤テ處斷ニ及ヒタル者ニテ本犯自ラ包藏シタルト異ナルニヨリ

相抵觸スルコトナシ先般指令ノ通り可心得事

○訴訟之部

第廿七號

七月廿七日

大審院長代理判事玉乃世履

(第二百一十一) 証據書類誤字之儀ニ付伺

被告者ヨリ初告或ハ上等裁判所へ差出シタル証據書類中誤字ノ廉之アリト大審院ニ於テ見認ムト雖モ本人ヲ審問セザレハ果シテ誤寫タリト定メ難キ場合ニ於テハ夫レ耳被告者ヲ大審院へ呼出候ニモ及尙敷ト見込候然ル時ハ被告者所在ノ地ノ初告裁判所へ掛合ノ上本人ヨリ答書ヲ出サセ候方可然哉又ハ本人ヲ管轄スル地方廳へ掛合候方可然哉右ハ訴訟法ニ關スル義ニ付相伺候條至急御指令有之度候也

指令錄民事

(指令) 十年八月三日 伺ノ趣文面ノ主旨若クハ証據上ニ關スベキ誤寫アル時ハ該件ヲ審理シタル地方裁判所若クハ上等裁判所ニ問合スル歟或ハ被告本人ニ問合スル歟其便宜ニ從フ可シ

右指令ニ付追達 (十年八月十三日)

大 審 院

本月三日附指令ニ及ヒ置候被告者證據書類誤寫云々ノ儀左ノ通但書追加指令候條此旨相達候事

但被告本人ニ問合ノ儀ハ本人所在ノ地方裁判所若クハ本人ヲ管轄スル地方廳ヲ經由スルモ其便宜ニ可從事

第廿七號 八月十日

橫濱裁判所長判事立木兼善

(第二百十二) 民事ノ裁判ヲ受ケタル後吟味願ヲ爲ス者ノ儀ニ付伺

- 第一 民事ノ裁判ヲ受ケテ心服セサル者ハ控訴ヲ爲ス可キノ成法ニ候處其輸ケタル者贏チタル者ノ證據物ヲ偽造又ハ變造ナリト指稱シ刑事ノ門ニ(警察官吏)訴ル者アリ民事裁判所ハ其訴ニ關セス前キノ民事裁判ノ執行ヲ命スベキ者ニ候乎
- 第二 將々吟味願ヲ爲ス者アル時ハ其願ヲ受ケ取リタル官吏或ハ願ヲ爲シタル者ノ通報ニ依リ前キノ裁判ノ執行ヲ中止ス可キ者ニ候乎
- 第三 若シ前キノ裁判ノ執行ヲ中止スル者トセハ控訴期限經過不經過ニ關セズ刑

事裁判ノ結果ヲ竣ツ者ニ候哉又ハ控訴期限ヲ經過スル時前キノ裁判ハ執行セシメル者ニ候哉 右ハ曾テ本年五月廿五日相伺候處趣意簡明ニ顯ハス可クトノ御指令ニ付更ニ條陳御批示ヲ仰キ候也

(指令) 十年八月廿九日 伺ノ趣民事裁判官言渡ノ後一方ノ者一方ノ證據物ヲ偽造若シハ變造ナリト指稱シ刑事ノ訴ヲナスト雖モ裁判官民事裁判執行ノ中止ヲ命令スルニ及ハサル儀ト心得可シ

(理)

橫濱裁判所伺ハ民事裁判ノ後一方ノ者判事ノ訴ヲナスモ裁判ノ執行ヲ中止スベキヤ否ノ疑問ニ係ル抑モ民事裁判中一方ノ者刑事ノ吟味願ヲナスモ民事ノ裁判ヲ中止スルコト當然ナリト雖モ裁判言渡ノ後ニ至テハ縱令一方ノ者吟味願ヲナスニモ民事裁判ノ執行ヲ中止スベカラザルナリ

第廿八號 八月十一日 新潟縣令永山盛輝代理大書記官南部信近

(第二百三十六) 民事關涉ノ儀ニ付伺

民事訴訟ニ屬スル件ニテ則裁判上受理アルヤ否ノ儀或出訴期限等其他民法ノ儀ニ付管下平民ヨリ直ニ伺出候向有之候處受理不受理等ノ儀ニ就テハ素ヨリ法官ノ見込ニ可有之筋ニ付不及指令却下致來候得共出訴期限等ノ如キハ公布上明文アルモ種々入込小民共ニ於テハ難相分ヨリ伺出候儀ニ有之偶司法省指令錄第十四號ヲ閱

指令錄民事

スルニ東京府へ同指令ニ各人民ニ對シ法律ノ辨明ハ一切不致旨揭載有之就テハ人民ヨリ直ニ伺出候節ハ都テ不差示法理ニ可有之歟將々地方廳ニ於テ之ヲ明示スルトセハ制法上區限ニ有之儀ニ候哉何分ノ御指令被下度此段相伺候也

(指令) 十年十月十一日 伺ノ趣東京府へ指令ノ通り各人民ニ對シ法律ノ辨明ハ一切不致儀ト心得ヘシ

第廿八號 十月六日

福島縣權令山吉盛典

(第二百三十七) 區入費出訴ノ儀ニ付伺

身代限處分ノ節區入費取立ノ金額ヲ區戶長ヨリ訴出ルハ訴訟手續ヲ履行シ可然哉ニ存候得共該費ノ儀ハ租稅同様先取ノ權ヲ有スヘキ儀ハ豫テ達ノ趣モ有之次第依テ租稅未納金ヲ地方廳ヨリ裁判所へ通牒ト同ク通常公文用紙ニテ照會為致不苦哉此段相伺候條至急御指令候也

(指令) 十年十月十三日 伺ノ通

○出訴期限之部

第廿八號 八月十六日

橫濱裁判所長判事立木兼壽

(第二百三十二) 出訴期限起算方法ノ儀ニ付伺

第一條 明治六年第三百六十二號公布出訴期限規則前文中雙方ノ者互ニ受取渡ノ期限ヲ定メトアルハ單ニ物品ノミノ請渡ヲ謂フ歟單ニ代金ノミノ請渡ヲ謂フ歟將

ク物品代金ヲ係セ稱スル者トセハ商人互ノ賣掛商人ヨリ商人ニ非ラサル者エノ賣掛ケニ論ナク其地ノ慣習ニ由テハ譬ヘハ一月以内物品ノ請渡ヲ爲タル者ハ其月ノ最初最終ニ論ナク其月晦日即小ノ月ナレハ三十日大ノ月ナレハ三十一日代金請渡ヲ爲ス者アリ俗ニ之ヲ月拂ト謂フ又六月以前ニ物品請渡ヲ爲シタル者ハ其月ノ前後ニ論ナク其年六月晦日六月以後ハ十二月晦日代金請渡ヲ爲ス者アリ俗ニ之ヲ半季拂ト謂フ又其物品請渡ヲ爲シタル者六月前後ニ論ナク其年十二月晦日代金受渡ヲ爲ス者アリ俗ニ之ヲ一季拂ト謂フ又一種間拂ト謂フ者アリ即一日以後ノ物品請渡ハ二月二月以後ハ四月四月以後ハ六月六月以後ハ八月八月以後ハ十月十月以後ハ十二月隔月晦日ニ代金請渡ヲ爲ス者アリ又契約ニ由テハ其期ノ短キ者ハ即日即物品受渡ノ當日代金受渡ヲ爲ス者其期ノ長キ者ハ物品受渡ノ年ヨリ二年三年或ハ五七年ノ後ニ代金受渡ヲ爲ス者アリ(蓋シ期ノ短キ者ハ物價廉期ノ長キ者ハ不廉利息ニ關係アルヲ以テ也)夫レ慣習ノ如キハ當時雙方即權利義務者正シク期限ノ約束ヲ爲サ、ルモ其地ノ仕來ニテ何月何日ハ代金受渡ノ期限ナリト各心各認アルヲ以テ証書アル契約ト同一ノ効アル者トス然レハ出訴期限ヲ起算スルハ契約証書アレハ証書記載ノ期限ヨリ六ヶ月若シ証書ナケレハ雙方契約ヲ爲タル証據ノ期限ヨリ六ヶ月証書ナク契約ナキ者ハ各心各認シタル慣習ノ期限ヨリ六ヶ月ト心得可然哉

指令錄民事

第二條 約束ノ期限金子調達ナラサルヨリ負債主ノ依頼又ハ債主ノ慈愛ニヨリ以前証書ナキ者証書ヲ製シ(一何品代金何百圓何十何圓借用申處實正ナリ返濟ノ儀ハ來ル何年何月何日相違ナク皆濟可致云々其証文少シク異同アルモ趣意大抵此ニ外ナラス)更ニ代金請渡ノ期限ヨリ起算スレハ出訴期限ハ既ニ經過スシ了ルモ其証書ノ期限ヨリ起算スレハ尙ホ出訴限内ニアル者ハ前度ノ期限ヲ視ス後度ノ期限ニ據リ濟方ノ裁判可然哉

按スルニ一説ニ明治六年第三百六十二號公布文中條約ヲ破リタルキハ早速裁判所へ出訴致シ不苦候處延期ノ勘辨ヲ加へ出訴見合云々ト有ニ據レハ前度ノ期限ヲ視テ後度ノ期限ヲ視サルヲ善トス何則前度ノ期限ハ双方ノ承諾ニ成立即本來ノ期限後度ノ期限ハ一方ノ依頼所謂延期勘辨ナル者ニテ其出訴期限ヲ過去(說者ノ論ハ前度ノ期限ヨリ起算ス故出訴期限ヲ過去ルト云フ後度ノ期限ヨリ起算スレハ出訴期限以内ノ者タリ)リタルハ所謂自分條約ヲ取消タル者ナリト謂フト雖モ夫レ期限ハ双方ノ承諾ニ成立者ナレハ其期限ヲ約束スルニ或ハ長キ者アル或ハ短キ者アリ又ハ斷タント欲シテ續ク者アルモ法律ニ抵觸セサル者ハ双方ノ撰ヒニ任カス然レハ前度ノ期限尙ホ出訴限内ニ在テ後度ノ期限ニ繼續セル者ハ全ク期限改正ニテ最初ヨリ契約シタル期限モ同一ナリトス故ニ後度ノ期限ヲ視テ前度ノ期限ヲ視サル方法理適當ナリトス殊ニ彼ノ延期勘辨云々ハ出訴期限

ヲ施設スル所以ヲ説明スル爲ノ人間變換ヲ摸寫シタルコト契約ノ上ニ關係ナシ故ニ本文ノ如ク然リ

第三條 出訴期限ヲ經過シタル後種々ノ便宜ニヨリ證書ヲ製シ更ニ辨償ノ方法及ヒ期限ヲ約束シタルハ權者ニ於テ一旦權利ヲ拋棄シタル者ナルヲ以テ濟方不申付シテ可然哉右ハ差掛リタル事件ニ屬シ候條至急何分ノ御指揮奉仰候也

(指令) 十年九月二十八日 第一條 第二條 第三條 濟方申付ヘキ事  
 第廿七號 九月十八日 神戸裁判所長判事松岡康毅

(第二百十九) 出訴期限經過ノ儀伺

過日大畧面陳仕候通民事詞訟ノ目安紓御廢止ニ就テハ頗出訴會限ノ法律ニ影響ヲ生シ出訴期限法ニ於テハ一二ノ鄙見モ有之孰レ上陳ノ積ニ御座候得共即今ノ場合差向暫ク左ノ如ク取計申候得ハ稍情狀妥當ニモ可有之手否至急御指令被下度候也

第一 原告者訴狀ヲ差出候ハ、假令出訴期限經過シタル者タリモ其儘被告者ニ附シ返答書可令差出事

第二 返答書ヲ以未盡ノ義務有之事ヲ明認シ唯延期或ハ減少ヲ求メ候迄ニテ出訴期限ノ經過ヲ主張シ原告ノ請求ヲ拒絕セサル時ハ無論原告ノ請求通(尤權利ハ相當ト見込モノ)執行(被告ノ身代限ニ至ル迄モ)可申付事

第三 既ニ執行取懸リ候後タリモ被告者ヨリ更ニ出訴期限ノ經過ヲ主張シ原告ノ

請求ヲ拒絕スル時ハ其申立ヲ採用シ本件取消ス可キ事

但假令出訴期限經過ノ後タリハ人民相互延期等ノ文書類取渡セシ者ハ他日取消

ベカラサル事

第四 前條ノ場合本件取消ハ致候共必竟被告者ノ過失祖漏ニ係レハ原告者ノ入費  
又ハ身代限揭示ニ付他ヨリ訴出候債主ノ入費等ハ仍ホ被告者ニ可令擔當事

別條 凡法律ハ人民ノ知了セシモノト見做ス故ニ出訴期限ノ内外ヲ不問雙方相互

ニ約定書又ハ手簡等ヲ以テ一方ノ被告者自ラ義務ヲ認メシ時ハ總テ既往ヲ除棄シ

(一方ノ原告)者ハ新ニ最初ノ權利ヲ喚起シ出訴ノ期限ハ更ニ此時ヨリ起算スベク

後日ニ至リ(一方ノ被告)者法律ヲ忘却セシト云フナク口實トシテ之ヲ取消ス可キ事

可許況テ裁衙ノ手續ヲ經原告者ノ訴狀ニ對シ義務ヲ明認シテ出訴期限ノ經過ヲ主

張セサルモ執行スベキニ及テ更ニ前言ヲ離ス可キ事於テ其自由ニ任スベケン哉

(指令) 十年九月廿八日 第一條 裁判官ニ於テ其出訴期限ノ經過シタルト否トナ

明認スヘカラサルハ何ノ通 ○第二條 裁判官ニ於テ其出訴期限ノ經過シタル者

ト認メサルハ何ノ通 ○第三條 審理中ハ格別既ニ裁判言渡ノ後ハ原告ノ請求

ヲ拒絕スルノ申立ヲ爲スル本件ヲ取消ス事ヲ得ス尤モ控訴シタルハ此限ニアラ

ズ 但書延期ノ證書ヲ渡シシ者ハ固ヨリ取消ス可キ事得ス ○第四條 前條ノ指令ニ

テ了解スヘ ○別條 延期ノ約ヲ爲ス者ハ出訴期限ノ經過ヲ除棄スルコトヲ得ル

ト

雖モ明治五年第三百號布告第三條ニ準シ手簡等ノ往復書ハ此限ニ非ス

第廿八號 九月二十日

熊谷裁判所長判事關 新平

(第二百三十四) 出訴期限ノ儀ニ付伺

明治五年壬申第三百號布告第三條自今貴賤上下一般ノ人民互ニ期ヲ約シテ金銀貸

借シ期ニ及テ不返時内証屢催促ヲナスト雖モ期月滿五年ニ至ル迄壹度モ訴出サル

者ハ裁判ニ不及但當七月以前ノ貸借ノ分ハ此限ニ非ストアリ明治六年本省布達

五拾號ヲ以テ壬申第三百號布告第三條但書ノ儀云々トアリ其後明治六年第三百六

十二號公布出訴ノ期限ヲ定メラレ規則第五條但書明治五年壬申第三百號布告第三

條ニ定メタル規則ハ格別ナリトスト有之今爰ニ明治元年以後ノ貸借ニシテ壬申七

月以前返濟期限ノ切シタルモノ壬申七月以後ニ至リ二三ヶ月乃至六七ヶ月ノ猶豫

ヲ與ヘ日延一札等ヲ受授セシ者アリ負債主義務ヲ怠リタルモノ出訴ニ及フト雖モ

壬申第三百號公布第三條中滿五年ノ期限ヲ特ニ定メラレタルモノトモ右延期勘

辨中ノ日數ハ内証催促ヲナシタルモノト爲シ壬申七月ヨリ出訴ノ期限ヲ起算致ス

可キ乎將貸借上期限中訴ヲ爲スノ權ヲ有セサルモノニ付期限後滿五ケ年内ニ與ヘ

タル日延猶豫モ其期限ノ切タル翌日ヨリ更ニ滿五年ヲ算シ可申哉

一壬申第三百號公布第三條中内証屢催促ヲナスト雖モ期月後滿五年ニ至ル迄一度

モ訴出サル者ハ裁判ニ不及ト有之然ル處期月後直チニ出訴及ヒ又ハ區裁判所ニ

指令錄民事

勸出タル時負債主商法或ハ其他ノ事故ニテ旅行致シ不在ノ趣キヲ以テ一ト先訴狀  
ノ取下ケテ願出テ其後尙歸家スルモ相對示談ノ上延期勘辨ヲ加ヘ在滿五年ニ至  
ル迄再訴致サ、ル者ハ假令出訴期限中一度訴出ルト雖モ自カラ訴狀ノ取下ケ願フ  
タル者ニ付出訴スルノ權利ヲ拋棄シタルモノト見做シ受理不及可然哉  
右相伺候也

(指令) 十年十月八日 第一條延期ノ約ヲ爲シタル者ハ出訴期限ノ經過ヲ除棄スル  
コトヲ得可シ 第二條 一度出訴シタル者ハ出訴ノ權ヲ拋棄シタル者ト爲ス可カラズ  
但勸解願出タル者ハ此限ニ在ラス

第廿八號 九月十五日

東京府知事楠本正隆

(第二百三十八) 要償ノ出訴期限ノ儀ニ付伺  
人民商業取引上ニ付相手方ノ者不信不實ノ所業有之ヨリ損害ヲ被リタル償ヲ要ス  
ルノ出訴期限ハ如何相心得可キヤノ旨伺出候者有之右ハ當府限リ指示スヘキ筋ニ  
無之候ニ付相伺候條何分ノ御指揮有之度候也

(指令) 十年十月十六日 伺ノ趣契約ノ種類ニ由リ出訴期限規則ニ照準可致事  
○証券証書之部

第廿七號 七月廿六日

青森縣令山田秀典

(第二百十八) 戶主不在中開業轉業等ノ儀伺

第一條 戶主他縣寄留或ハ旅行ニテ不在中家事總理ノ委任ヲ受タル子弟ノ見込ヲ  
以新規營業轉業或不動産質入書入等致スニ付親類連署戶長ノ奥印ヲ乞フ時ハ奥印  
致シ不苦哉 第二條 戶主逃走尋中或ハ遠國旅行中其子弟ニテ轉業或ハ質入書  
入等ノ處分ヲ爲サ、レハ家計難相立戶主所在ヲ認ルテ候テハ時機ヲ失スル趣ニテ  
親類協議同上ノ手續ヲ以テ同上ノ儀ヲ申立ルニ於テハ戶長奥印致シ可然哉  
右兩件戶長致奥印可然儀ニ候ハ、証書等如何記載シテ通常貸借ノ證ヲ可爲哉

(指令) 十年九月廿六日 第一條 家事總理ノ委任ヲ受ケタル子弟ノ見込ニ任セ  
親族ノ連署ニ及ハサル事○第二條 戶主逃走或ハ遠國ニ旅行シテ所在知レサル時  
ハ家事ヲ總理スヘキ子弟親族協議ノ上申立候ハ、伺ノ通  
但割印帳及ヒ証書面ニ戶主不在ノ旨趣書加ヘ置ヘキ事

第廿七號 九月十一日

金澤裁判所長判事櫻井直養

(第二百十七) 印稅規則云々之儀ニ付伺

明治七年七月廿九日第八十一號御布告證券印稅規則第一則第二條總テ規則ノ通證  
券(印紙界紙)ヲ用ヒサル者ハ後日如何體ノ故障云々一切取揚裁判不成候事トアリ  
然ルニ諸證書ヲ訴狀中ニ登寫シ之ヲ訴出スルモ其印紙貼用等記載スル書式訴答文  
例附録中不相見依テ其訴狀ノミヲ閱シ脫稅減稅等ノ規則ニ觸ル、コトヲ見認メ難シ  
已ニ本年四月五日司法省丁第二十九號ヲ以テ目安糺ヲ廢セラル、ニ依リ被告ノ答

指令錄民事



辨テ依テ而シテ原被告對審ニ及ヒ其證書ヲ閱スルニ印紙脫稅又ハ減稅或ハ界紙ヲ用ユヘキニ白紙ヲ用ヒ規則ニ觸ル、時ハ假令原被告ノ訴答符合シ瞭然タル者ト雖モ右成文律アル上ハ裁判ニ及ハサル儀ト相心得候得共爲念相伺候條至急御指令奉仰候也

(指令) 十年九月廿五日 伺之通

第廿七號

九月六日

新潟縣令永山盛輝代理新潟縣大書記官南部信近

(第二百十六) 本年七月第五十號公布證書ノ儀ニ付伺

諸證書ノ姓名ハ本人自書シテ實印ヲ押シ若シ自書スル能ハサル者ハ代書セシムルモ其實印ヲ押シ代書セシモノハ本人姓名ノ傍ニ代書セシ事由ト姓名ヲ記シ實印ヲ押スヘキ旨本年七月第五十號ヲ以テ公布有之人民周知ノ上手續キテ踐マサル證書ニ於テハ他日其効無之者ニ可有之哉ト存候得共爲念此段相伺候也

(指令) 十年九月廿五日 伺ノ趣本年第五十號公布ノ手續ヲ踐マサル證書ノ効ノ有無ハ審理ノ上ニ非アレハ判決スヘカラサル儀ト可心得事

(理)

新潟縣伺ハ本年第五十號公布ノ手續ヲ踐マサル證書他日無効ニ歸スヘキヤノ疑問ニ係ル抑モ第五十號ノ布告ハ證書ヲ確實ナラシムル爲ノ法律ニシテ此手續ヲ踐マサル證書ハ無効ニ歸スヘシトノ謂ニ非ス然レハ則チ此手續ヲ遺漏シタル証

書ノ有効ニ歸スルト否トハ審理ノ上ニ非レハ判決スヘカラス

第廿八號

八月三十一日

大審院長代理判事玉乃世履

(第二百廿一) 證券印稅規則違犯ノ者ノ儀ニ付伺

明治七年七月廿九日第八十一號布告證券印稅規則第二則第一條第二類中米穀並諸品賣買約定證文トハ物品賣買契約ノ確定セル證書契約ノ義務ノ執行ヲ停止スルヲ得ス又ハ其義務ヲ解除スルヲ得サルノ類ノ事而已ニシテ其未必ニ係ル契約證書ハ(契約ノ義務ノ執行ヲ後ニ或事ノ生スルニ至ルマテ停止シ又其事ノ生シ或ハ生セサルニ從ヒ其義務ヲ解除スルヲ得ルノ類)第二則第三類金高計載無之約定證書(雇入受狀ノ類)ニシテ界紙ヲ用フヘキ條ニ照準スヘキ事ト相心得可然哉此段相伺候也 但別冊判文案(零之)差添候

(指令) 十年十月一日 伺ノ趣未必ノ條件ニ關スルト否トヲ問ハス賣買ノ契約證書ニハ證券印紙規則第二則第二類中米穀並諸品賣買約定證文ニ準ス(其金高全類

ノ印紙ヲ貼用スヘキ儀ト可相心得事 但別紙參照ノ判決文ヲ閱スルニ本件ハ賣買ノ契約即チ双務ノ契約ナレハ若シ一方ノ其義務ヲ盡カ、ル時ハ既ニ成リタル其契約ヲ解除スルヲ得可キ未必ノ條件ニ付敢テ賣買契約ノ定マラサル者ト云フヘキモノニアラス

○貸借之部

指令錄民事

第廿八號

九月十八日

東京裁判所長判事池田彌一

(第二百三十三) 請人辨償ノ儀ニ付伺

金穀貸借請人證人辨償規則ニ依レハ債主ハ必ス負債主身代限ニナル歟又ハ逃亡或ハ死去相續人無之時ニ非サレハ直ニ其請人ニ掛リ出訴スルヲ得サル等故ニ債主負債主ノ間ニ假令如何ナル契約アルモ前條ノ場合ヲ除クノ外ハ負債主本人ヲ聞キ直ニ請人ニ掛リ要求スレハ一概ニ訴訟手續ニ背クモノトシ訴狀致却下來候ヘ左案ノ如キ證書ノ儀ハ該請人ニ於テ一旦負債主違約スルキ逃亡處分ヲ待タズ直ニ本人ニ代リテ債主同一ノ義務ヲ盡ス可キコト已ニ承諾シタルモノナルニ付此ノ別段ノ契約ヲ爲シタル債主者ニ限リ直ニ請人ニ掛リ出訴スルハ相當ノ條理ト存候ニ付自今此ノ如キ類ノ詞訟ハ致受理可然哉此段相伺候也 別紙

證

一金幾圓也

右ノ金額正ニ致借用候也來ル何年何月何日限り無相違可致返濟候萬一借主旅行致シ(或ハ行衛不知シテ)返濟及違約候節ハ請人ニ於テ本人ニ成リ代リ直ニ致代償聊御迷惑相掛申問敷候爲其証一札如件

年號月日

債主某殿

負債主 某 印  
 請人或ハ証人某 印

(指令)

十年十月八日 伺之通

第廿八號

九月二十六日

東京上等裁判所長心得判事西成度

(第二百三十一) 六年第四十三號布達中ノ儀ニ付伺

明治六年本省第四十三號御布達中金穀等可相渡期限ニ臨ミ云々其期限ノ日且期限ナクシテ金穀入用次第可相渡旨ノ約定ヲナシタル分ハ渡方ノ掛合ヲ受ケ候日ヨリ何レモ利足ヲ生シ可申筋ニ付云々ト有之然ルニ今入用次第可相渡ノ約定明文モ無之唯貸借スル事相違ナキヲ證明スル迄ノ無期限契約書ニシテ雙方示談ノ歩合モ定メサルモノヲ以テ詞訟上利足ノ辨否ヲ爭フモノアリ是等ハ無期限無利足ノ契約ニ付右布達限外ニシテ到底利足ヲ生セサル儀ト相心得可然哉若シ本件ノ如キモ利足ヲ生スヘキ儀ニ候ハ、何ヲ以テ起算ノ標點ト可致哉御指揮被下度此段相伺候也

(指令)

(理)

十年十月十三日 伺ノ趣事實利息ノ約ナキ者ハ利息ヲ生スヘキノ理ナシ

東京上等裁判所伺六年第四十三號布達中金穀入用次第可相渡トノ契約ハ本來權利者ノ爲メニナシタルモノナレハ該伺ノ如ク昨貸借ヲ證明スルノミノ證書ニシテ全ク無期限無利息ナルモノトハ大ニ其性質ヲ異ニス何トナレハ期限ヲ定メス利息ヲ設ケス金穀ヲ貸與スルハ畢竟義務者ノ爲ニスル恩惠ノ契約ナレハナリ果シテ恩惠ノ契約ナル時ハ權利者其利息ヲ要求スルノ理ナシ

指令錄民事

第廿八號 九月二十九日

岩手縣令島 惟精

(第二百四十一) 預金附込通帳利子ノ儀ニ付伺

本年第六拾六號利息制限法公布ニ付警ハハ百圓以上千圓未滿不定數ノ金圓ヲ例月累次ニ預ク可キ約定ニテ利子ハ一月一步二厘トシ例月各別ニ證書ヲ要セス其一年預ク可キ極度ノ金員ヲ數千圓ニ見込附込通帳簿ヲ製シ規則ノ印紙ヲ貼用シタルモノノ約定ノ利子ヲ推テ直ニ極度ノ見込金高ニ當ルキハ制限ノヒニ超過スト雖モ其實預金ハ各月ニ別々其各月ノ預金額ヨリ生スル利子ノ儀ニ候得ハ附込見込高ハ千圓以上ニ候得共各月ノ預金千圓未滿ナルキハ裁判上制限百分ノ十二ニ利子ヲ引直シムトアルノ際ニ無之儀ト存候得共爲念此段相伺候也

(指令) 十年十月十七日 伺ノ趣一廉ニ預ケタル高ノ制限ニ據ルヘキ事

第廿八號 九月十九日

東京上等裁判所長心得判事西成度

(第二百廿六) 利息制限法ノ儀ニ付伺

今回第六十六號公布ヲ以テ利息制限法被定候處右ハ其頒布以後取結候契約ヨリ裁判上改正致シ候儀可有之哉又ハ曾テ契約取結居候分ト雖モ前書頒布以來ノ訴訟ニ係ル者ハ向後裁判上改正致シ候儀ニ可有之哉既往ノ及否判然難致ニ付如何相心得可然儀ニ候哉至急御指揮有之度此段相伺候也

(指令) 十年十月三日 伺ノ趣既往ニ不及儀ト心得ヘキ事

第廿八號 九月廿二日

神奈川縣權令野村靖

(第二百廿三) 利息制限法之儀ニ付伺

第一條 貸借上有期ノ契約御布告己前ニ係ルモノハ假令其利息御布告ノ制限ヲ超過スルモ以後ノ裁判上ニ有効ノモノト可見候儀ニ可有之候ハモ從前無期限ノ契約ヲ以テ貸借セシモノハ如何相心得可然哉

第二條 金銀貸付會社々則利子ノ如キ經伺ノ上人民ノ相對ニ任セ其規則ヲ公認セシニ社則中手數料ヲ請求シ或ハ御制定ノ利子ニ超過スルモノハ改正セシム可キカ或ハ人民ノ相對ニ任セ置キ可然儀ニ可有之哉

第三條 質渡世ノ者仲間申合規則ヲ設ケ懸應之ヲ公許シアルモノ其規則中利子ノ定目今般ノ制限ヲ超過スルモノハ御布告ニ依リ改正セシムヘキカ將テ人民ノ協議ニ任セ利子ノ定限ヲ刪除シ可然哉

(指令) 十年十月八日 伺ノ趣○第一條 有期無期ニ拘ハラズ利息ノ制限ハ既往ニ及ハサル儀ト心得ヘシ○第二條 第三條 該公布ニ準據ス可キ儀ト心得ヘシ

第廿八號 九月廿四日

東京府知事楠本正隆

(第二百廿三) 利息制限法ノ儀ニ付伺

本年太政官第六十六號ヲ以テ利息制限法被定候ニ付テハ右公布以前取結タル利息ハ警ハハ制限ヨリ超過候モ其効ヲ有スルモノニ候哉若シ其効ナキモノトセハ制

指令錄民事

限迄ニ引直スヘキ儀ニ候哉即今伺出ノ者有之候條至急御指揮有之度候也

(指令) 十年十月八日 伺ノ趣其効ヲ有スル儀ト心得ヘシ

山梨縣令藤村紫朗

第廿八號 九月十四日

(第百廿四)

同上之儀伺

此般第六十六號ヲ以テ利息制限法公布相成候處從來金銀貸借上人民相互ノ契約ヲ以テ利息ヲ定メ現今期限中ノ者右制限ニ超過候分ハ如何可爲致哉爲心得相伺候也

(指令) 十年十月八日 伺ノ趣ハ既往ニ及ハス候事

長野縣權令檜崎寬直代理同縣少書記官松野篤

第廿八號 十月四日

(第百廿五)

同上之儀伺

這般第六十六號ヲ以テ利息制限法公布有之候處人民互ノ貸借上不動産ヲ抵當トナシ戸長ノ與書割印等ヲ要スル證書ニ登記スル利息金若シ制限ヨリ超過スルモ互ノ約定ヨリ生シ登記スル儀ナレハ假令裁判上無効ニ屬スト雖モ戸長ニ於テ例規ノ通該證書ハ與書調印等イタシ不苦義相心得可然哉 右差掛伺出候向有之候ニ付至急御指揮有之度此旨相伺候也

(指令) 十年十月十五日 伺ノ趣制限ヨリ超過スル證書エ戸長ニ於テ與印割印不相成儀ト心得可キ事

第廿八號 九月廿七日

長野縣權令檜崎寬直

(第百廿八) 同上ノ儀伺

這般第六十六號ヲ以テ布告相成候利息制限法ハ單ニ今後ノ利息制限ヲ定メラレタル者ニシテ右御發令以前ニ係ル貸借上ノ利子ハ假令制限ヲ超過スルモ裁判上有効ノモノト心得可然哉右差掛リ伺出候者モ有之ニ付至急御指揮有之度此旨相伺候也

(指令) 十年十月八日 伺ノ通

仙臺裁判所長判事土師經典

第廿八號 九月廿日

(第百三十)

同上ノ儀伺

今般太政官第六十六號公布ヲ以テ利息制限法被定候處審案中ノ訴訟ハ勿論此後ニ在テモ各地方廳該公布ヲ揭示シ揭示日限ヲ畢ル迄ノ間ニ結ヒタル契約ハ該制限法ニ拘ハラヌ明治六年第四十號公布ニ基キ人民相互ニ取極メ證文ニ記載ノ通裁判ス可キ筈ト心得候ヘシ尙又之ヲ反顧スレハ方今ノ弊習猥リニ高利ヲ貪ル者之アルカ爲ノ制限法相定メラレタル儀ニモ可有之哉故ニ倘シ之ヲ既往ニ及ホサストセハ譬ヘハ今日三ヶ年期ノ契約ヲ結ヒシ者ニ出訴期限ノ五ヶ年ヲ通算スルハ七年ノ後ニ於テモ該制限法ヲ實施ス可カラサル訟件之アルニ立至リ甲ハ公布周知前ニ係リ乙ハ其後ト區分シ取扱ハサルヲ得ス果シテ然ラハ審判上不都合ニモ可有之歟疑議ヲ生シ候ニ付此段相伺候也

(指令) 十年十月八日 伺ノ趣既往ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

指令錄民事

第廿八號 九月廿九日

(第百廿九) 同上ノ儀伺

權令宮城時亮代理大書記官成川尙義

本年第六十六號公布利息制限法第二條契約上ニ出ルノ利息該公布以前ノ契約ニ係リ此限リテ超過スル分ハ公布ヲ以テ界トナシ以前ノ利息ハ當初ノ契約ニ從ヒ以後ノ利息ノミ制限法ニ準シ引直シ人民交互取引勘定致ス可マ義ニ可有之哉此段相伺候也

(指令) 九年十月九日 伺ノ趣ハ本年第六十六號公布以前ニ係ル契約ノ利息ハ右公布以後ト雖ヒ其効チ有スルモノト可相心得事

第廿八號 九月廿八日

(第百廿七) 同上ノ儀伺

松山裁判所長判事伴正臣

本年第六拾六號公布利息制限法第二條契約上ノ利息トハ云々若シ此限チ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニ引直サシムヘシトアリ其文勢將來既往ノ別ナク己ニ裁判スル場合ニ於テハ總テ右制限ニ引直サシムル者ニ有之様相見候得共明治六年第四十號公布ヲ以テ從前ノ定限チ解貸借双方ノ示談ニ任セ候上ハ假令幾千超過スル分ト雖ヒ先キノ定制チ解タル日ヨリ第六十號公布人民熟知ノ日迄既ニ債主ノ得タル權利チ制限スルハ允當ナラサルヲ覺テ從前而結タル契約ニテ制限ヨリ超過スル分ハ右第六十六號公布ヲ承知セシ日ヨリ制限ニ引直シ裁判致スヘキ

儀ト相心得可然哉此段相伺候也

(指令) 十年十月十一日 伺ノ趣本年第六拾六號公布ハ既往ニ及ハス候事

但該公布後ニ係ル契約ト雖ヒ人民周知ノ後ニアラサレハ實踐スルコト得サルハ勿論タル可シ

〇書入質之部

第廿八號 十月

東京上等裁判所判事西瀧 訥

(第百四十) 六年第八十號布告地所質入書入規則ノ儀伺

地所質入書入規則第九條(改正)ニ若シ與書并ニ割印ナキ證文ハ質入又ハ書入ノ證據ニハ不相成ニ付右證文ヲ以テ訴出ルニ於テハ質債主財產分産ノ時債主包ノ債主ニ對シ先取ノ特權ヲ失ヒ獨リ質入又ハ書入ナキ金穀借貸ノ處分ヲ致スヘク事ト有之又第十六條(增補)ニ若右日限内與書割印ヲ受ケヌシテ後日其證書ヲ以テ訴訟ニ及フキハ質入書入ノ證據ニハ不相立ニ付裁判上釋賣分配ノキハ先取ノ權利ヲ失ヒ質入書入ナキ貸借同様ノ處分ニ及フヘキ事トアルハ與書并ニ割印ナキ證文ヲ所持スル債主ハ他ノ債主ニ對シ其証文ハ質入書入ノ證據ニ不相成ニ付先取ノ特權ヲ失フト云ノ意ニシテ其契約ヲ爲シタル双方ノ間ニ於テハ素ヨリ質入書入ノ證據ト相成ルハ勿論ナル儀ト存候得共與書并ニ割印ナキ證文ハ質入又ハ書入ノ證據ニハ不相成ニ付云々又其證書ヲ以テ訴訟ニ及フキ質入書入ノ證據ニハ不相立ニ付云々ト

指令錄民事

アルヲ以テ或ハ契約ヲ爲シタル双方ノ間ニ於テモ質入書入ノ證據ニ不相成義ニ相見果シテ然ルルハ該規則ヲ以テ地所書入質入ニ付テハ人民相互ノ私約ヲ禁制セラレタルモノト見做シ債主私ノ證書ヲ以テ訴出タルモ負債主ニ於テ其證據ハ相違ナシト雖モ私ノ證書ナルヲ以テ質入書入ノ義務ナキ旨申立又ハ該規則以前ニ質入書入ノ證文渡シタル負債主未タ與書割印ヲ受ケサル債主ニ對シ期滿免除ヲ得タルモノト見做シ債主與書割印ヲ受ケサル證書ヲ以テ訴出タルモ負債主於テ其證書ハ相違ナシト雖モ與書割印ヲ受ケサレハ質入書入ノ義務ヲ免レタル旨申立ルヲ皆以テ然リト判決スヘキモノニ候哉

一 該規則第十四條質入書入年季中ノ分ニテ證文不相改與書并ニ割印ヲ受ケサルモノハ第拾六條與書割印ヲ受ケサルモノ同様ニ處分可及ハ勿論ノ義ト存候得共右十六條ハ明治六年七月三十一日以前ニ期限ヲ過去リタル分トアルヲ以テ年季中ノ分ハ格別ナル如クニモ相見果シテ然ラキハ右規則以前ヨリ未タ年季中ノ分ニテ證文不相改與書并ニ割印ヲ受ケサルモノト雖モ他ノ債主ニ對シ尙質入書入ノ證據トナル義ニ候哉 右兩條疑團有之候間御明示相成度此段奉伺候也

(指令) 十年十月十七日 第一款 與書割印ナキ證書ト雖モ契約ナシタル双方ノ間ニハ質入書入ノ効アル儀ト心得ヘシ 但他ノ債主ニ管係スルノ場合ハ此限ニアラヌ 第二款 年季中ノ分ニテ證書不相改與書割印ヲ受ケサル證書ト雖モ前款

同様心得ヘシ 但他ノ債主ニ管係スルノ場合ハ此限ニアラヌ

○費用弁償之部

第廿七號 九月七日

長崎裁判所長判事瀧彌太郎

(第百十三) 審理中ノ者却下云々ニ付伺

本年本省指令錄民事部第廿號東京上等裁判所伺御指令但書ノ趣ニ付丁卯以前ノ預ケ證書ニテ封ノ儘又ハ預リ中融通使用ヲナサ、ル明文ナキモノ本年本省丁第廿九號達目安糺廢止以前ニ受理及ヒタル訴訟處分方ニ付過三十一日附テ以テ相伺候處東京上等裁判所ニ指令ノ通可相心得但既ニ受理シタル分ハ當廳ノ見込ヲ以テ處分可致旨御指令有之候付テハ前陳ノ如キ訴訟ニテ現今審理中ノモノハ無論及却下被告ノ入費ハ官ヨリ償却可致筋ト見込候處有金員ハ本省ヨリ御送致可相成哉此段相伺候也 但本省ヨリ御送致相成儀ニ候ハ、金員ノ儀ハ追テ取調ノ上々申可致候事 (指令) 十年九月廿一日 伺ノ趣官ヨリ償却スヘキ者ニ無之候事

第廿七號 八月廿九日

愛媛縣權令岩村高俊

(第百十四) 身代限財產ノ事ニ依テ區戶長裁判所へ出願セシ手當金ノ儀伺 第一條 被告身代限ノ節該區戶長財產雜費金員ヲ上納セシニ不明瞭ノ稜アリ裁判所ノ徵喚ヲ受ク出頭ス其後原被熱議解訟トナル此時戶長ノ旅費日當原被告ヨリ仕拂ラワセ可然哉 第二條 前條ノ節被告甲區ニ住シ乙區ニ地所ヲ有ス原被代人財

指令錄民事

調書ヲ以テ乙區戸長ノ與書ヲ請フ戸長裁判所ノ違書及ヒ本書ニ被告ノ捺印ナキヲ以テ諾セス於是原被代人再ヒ示談身代限聞濟ノ書ヲ示シ且被告實印ハ甲區戸長ニ預置キタル旨ヲ以テ與書ヲ索ム戸長尙ホ甲區戸長實印預アル証書ヲ徴ス依之遂ニ裁判所へ徵喚セラレ右示談身代限聞濟書ヲ証トシ與書命セラル右ノ旅費日當ハ何ツレヨリ仕拂可然哉 右兩條差掛リ候儀有之至急御指令有之度此段相伺候也

(指令) 十年九月廿二日 第一條 第二條 區戸長自己ノ所爲モヨリ裁判所ノ呼出ヲ受ケタル旅費ナレハ原被告者ノ擔任スヘキ者ニ無之事

第廿八號 九月二十八日 高知縣裁判所長判事石井忠恭

(第二百三十九) 訴訟入費償却ノ儀ニ付伺

甲ヨリ第一號第二號證書ヲ以テ期限ヲ定メ乙へ金白圓ツ、兩廉ニ貸付置シテ乙其期限ニ至リ返辭致サ、ル趣ヲ以テ甲ヨリ訴出シ處審判上一號一廉ハ乙全ク義務ヲ怠リ居リ二號ノ廉ハ期限通り義務ヲ盡シ當時證書取戻シ後レ居リシコ判然致シ因テ一ハ甲直乙曲トナリ一ハ乙直甲曲トナリ是即チ曲直相半ハスル者ト云サルヲ得ス斯ノ如キハ訴訟入費ノ高ヲ折半シ甲乙各自ニ償ハシメ候方至當ト存候得共一應相伺候條速ニ御指令ヲ仰候也

(指令) 十年十月十六日 伺ノ通

○論地之部

第廿七號 九月十九日

東京上等裁判所長心得判事西成度

(第二百二十) 従前地所爭論詞訟ニテ實地檢査致候節測量吏員ノ儀ニ付伺

従前地所爭論詞訟ニテ實地檢査致シ候節測量吏員ノ儀內務省へ掛合舊地理寮ヨリ差出相成候ニ付裁許繪圖面モ該寮ニ於テ調製候處右ハ明治九年本省丁第六號御達ニテ被廢候其後實地檢査ノ節ハ測量方原被告ヨリ可差出儀ト取極已ニ其通り履行候得共裁許書圖面ニ至テハ右原被告ヨリ差出候測量方ニ製造爲致候ハ不都合ニ付當裁判所へ別段測量方雇入製造爲致而シテ其入費ハ裁許狀ニ相用候界紙代價同様曲者ヨリ取立可然哉右ハ是迄成規モ無之儀ニ付相伺候至急御指令有之度候也 (指令) 十年九月廿八日 伺ノ趣裁許繪圖ハ原被告ヨリ差出候測量方ニテ製造爲致不苦候事 但差出ス所ノ繪圖ハ不都合ノ廉之レ無キ様可取計候事

○未納處分之部

第廿八號 九月一日

仙臺裁判所判事土師經典

(第二百三十五) 地租徵收ノ儀伺

于茲甲地所ヲ所有シ明治八年分ノ産益ヲ収獲スレモ該年ノ地租ハ未タ之ヲ上納セズ明治九年一月該地所ヲ乙ニ賣渡セリ然レモ徵收期限ニ至ルモ尙ホ未納ナルガ爲メ地方廳ヨリ現在該地所有ノ乙ニ其未納ヲ督促セシ處乙ニ於テハ該年ノ收穫ニ關セサルヲ以テ其徵收ヲ差拒ミヨリ茲ニ於テ地方廳ヨリ大藏省ニ稟請セシニ翌年ノ

指令錄民事

賣買ト雖其納期限ニ當リ實際地所々有ノ乙ヨリ徵収スベキ旨指令アルヲ以テ縣應ヨリ乙ニ係リ該未納ヲ請求セリ之ヲ推考スルニ元來地租ハ地價ノ等位ニ依ルト雖其其實收獲ヨリ生スルモノナレハ甲ニ於テ收獲セシ上ハ甲ヨリ徵收スルヲ當然ナリトス然レ其賣買ノ片己ニ甲ヨリ乙ニ所有ノ權ヲ移セシモノニ付未納ノ地租何レニテ負擔スヘキ契約之レナキモノハ總テ其義務ヲモ移セシモノト看做シ該地附帶ノ負債ハ乙ニテ擔當スルノ理ニ可有之哉疑議ヲ生シ候ニ付至急御指令有之度此段相伺候也

但御參照ノヲメ別紙大藏省指令相添候也

(別紙)

昨九年一月第三號ヲ以テ地租徵收期限改定公布有之全額ヲ二期ニ分テ該期限内又地方ノ景況ニヨリ分通りヲ定メ徵收スヘキ義ニ有之候處地所賣買スルモノ縱令ハ第一期其年九月三十日ノ期限迄ニ上納スルヲ能ハスシテ甲者ハ十一月乙者ハ翌年一月ニ至リ該地所ヲ賣買讓渡スノ類本年二月第十八號公布地租改正後買上地御拂下地收稅除稅規則ニ依レハ年分ノ稅額ヲ月割シ十一月賣買等ハ其年一月ヨリ十月マテノ分賣渡人十一十二兩月分買受人ヨリ徵收期限ノ通完納爲致可然儀ト存候處他ノ負債ニ依リテ身代限所分ノ者收稅方岩手縣伺ヘ其納期ニ當リ地所ヲ有スルモノヨリ取立云々ト御指令相見得然ル片ハ如前顯ノ翌年一月

賣買等ノ地所第一期納已後ニ係ルノ地租未タ地所不買請己前ノモノト雖其翌年第二期納期限内ニアルヲ以テ買受人ヨリ可完納節ニ有之哉御指令ノ趣ニ付疑團相生シ徵収方差支候間至急何分ノ御指揮被下度此段相伺候也

明治十年六月五日

宮城縣權令宮城時亮

大藏卿大隈重信殿

(大藏省指令) 六月二十二日 伺ノ趣翌年一月中ノ賣買ニ候其納期ニ當リ

實際地所々有スルモノヨリ徵収候儀ト可相心得事

(指令) 十月九日 伺ノ趣ハ乙ニテ擔當スヘキ儀ト可相心得事

(理)

仙臺裁判所伺ヲ按スルニ抑土地ノ所有ヲ得レハ其義務亦之ヲ負フヘキナリ且徵租ノ法必ス當時其地主ニ就テ其租ヲ督スルモノナレハ未納ノ地租甲乙何レニテ負擔スヘキ契約ノ有無ニ係ハラス當時地主タル乙ハ其租ヲ納サル可ラサルナリ

○身代限之部

第廿七號

九月六日

岩手縣令嶋 惟精

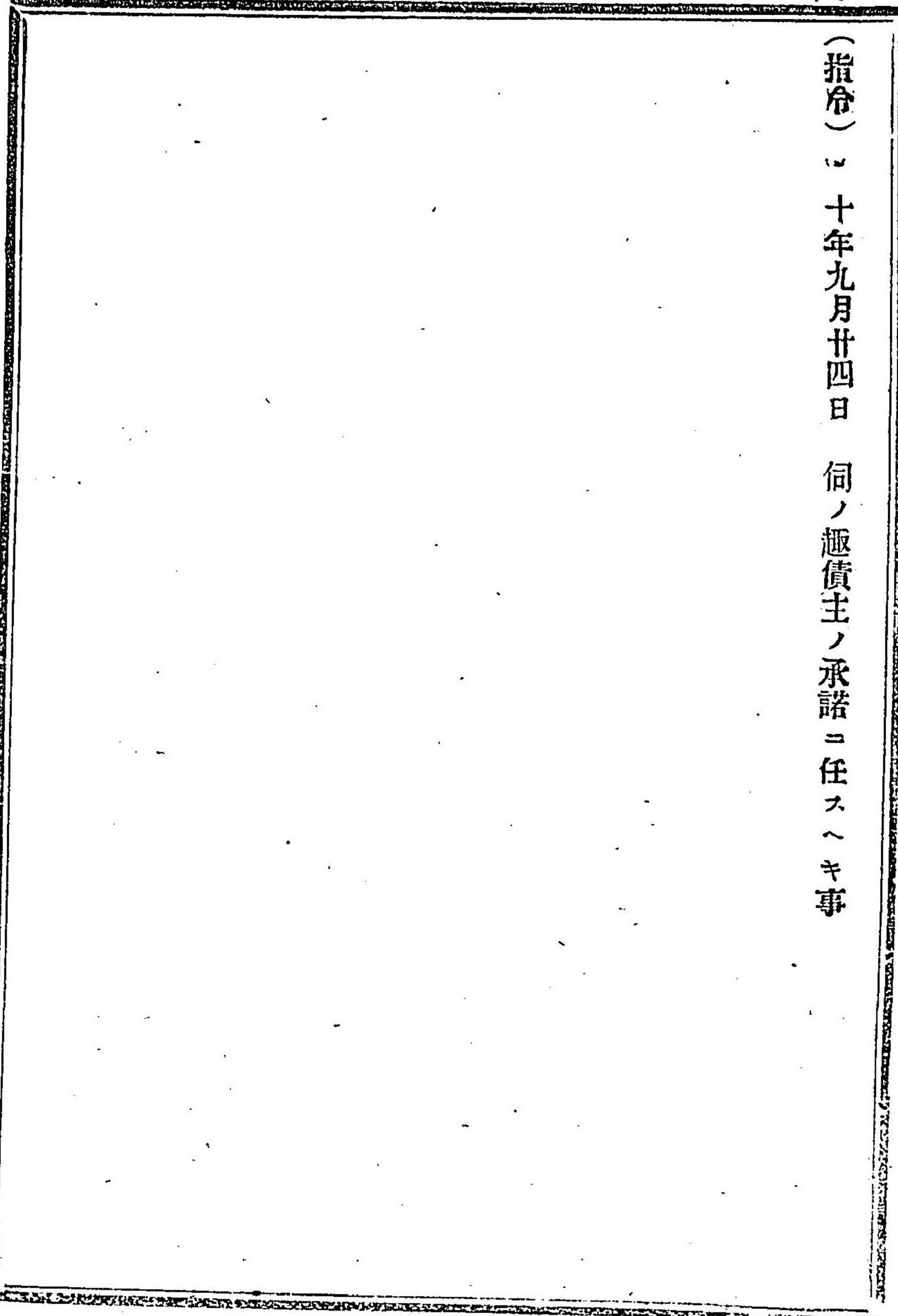
(第二百十五) 身代限處分ノ節土地耕耘収獲ノ儀伺

身代限處分ニ際シ耕耘ノ央糶賣揭示中耕作ノ期節ニ至ル片ハ所有主ヲシテ耕耘セシメ其収獲ハ前以テ不可期モノニ付素地ノミヲ糶賣スヘキ節ニ候哉相伺候也

指令錄民事



(指令) 十年九月廿四日 伺ノ趣債主ノ承諾ニ任スヘキ事



訓解

減	ヒ	ニ	(九	祈	ヤ	マ	メ	腐	必	ヌ	(二	訓
ウ	ナ	施	畫)	禳	リ	シ	ワ	ク	需	セ	畫)	解
セ	行	行	科	キ	リ	ワ	拘	サ	ヨ	支	二	
ル	コ	行	目	マ	抵	拘	引	サ	イ	障	項	
悖	ナ	行	ウ	チ	觸	引	タ	ワ	ウ	リ	カ	
戻	リ	行	カ	ナ	ル	タ	ヒ	(五	目	(四	フ	
ル	ヒ	行	キ	イ	サ	キ	テ	畫)半	標	畫)支	タ	
ト	オ	行	ヨ	治	ワ	ヤ	ル	額	ル	給	ス	
後	削	行	活	療	招	休	完	ガ	メ	ス	ワ	
雙	除	行	路	デ	牌	憩	納	ハ	シ	マ	タ	
サ	ノ	行	ナ	レ	バ	ム	オ	ソ	シ	ソ	マ	
ハ	ツ	行	ヘ	ウ	カ	ヤ	マ	ン	ユ	マ	ソ	
リ	ク	行	契	例	ン	ス	サ	五	レ	ソ	ソ	
起	拮	行	約	規	寒	サ	メ	サ	ク	カ	ソ	
算	据	行	ソ	キ	サ	ム	却	交	ヘ	ヨ	ソ	
ハ	ツ	行	ク	マ	辰	辰	下	涉	(六	ビ	ソ	
カ	ク	行	協	取	觸	觸	モ	ワ	画)全	ダ	ソ	
シ	シ	行	議	捨	ル	ル	ド	ヒ	奪	ケ	ソ	
メ	シ	行	ダ	ト	ト	ト	ゲ	タ	ト	シ	ノ	
ヘ	(十	行	ソ	ラ	具	具	ス	リ	ミ	ノ	ウ	
追	畫)紛	行	ン	ス	申	申	(八	立	ン	ノ	コ	
徴	失	行	ウ	ト	モ	モ	画)抵	ズ	ナ	ナ	ム	
タ	シ	行	保	ト	ウ	ウ	當	タ	交	互	オ	
テ	ト	行	證	附	シ	シ	ア	ム	互	イ	明	
リ	ナ	行	ア	箋	禁	禁	ヒ	ハ	イ	タ	瞭	
ル	ヒ	行	シ	フ	厭	厭	テ	レ	イ	タ	キ	
記	消	行	負	ツ			キ	レ	タ	タ	バ	
號		行	擔	ダ			授	メ	タ	タ	リ	
		行		ケ			授		レ	タ	ツ	

訓解

シル(十一畫)接續(十二畫)處分(十三畫)排(十四畫)列(十五畫)區(十六畫)畫(十七畫)産(十八畫)婆(十九畫)リ  
 アケ推究(二十畫)キオシ(二十一畫)専斷(二十二畫)キヒトリ(二十三畫)情態(二十四畫)ヨウス(二十五畫)紙(二十六畫)鳶(二十七畫)コ(二十八畫)脚(二十九畫)夫(三十畫)賃(三十一畫)ヤ(三十二畫)ク(三十三畫)キ  
 ノチ(三十四畫)匿(三十五畫)カ(三十六畫)ク(三十七畫)細查(三十八畫)シ(三十九畫)ラ(四十畫)ベ(四十一畫)ル(四十二畫)ニ(四十三畫)探(四十四畫)知(四十五畫)シ(四十六畫)ル(四十七畫)リ(四十八畫)捺(四十九畫)印(五十畫)オ(五十一畫)イ(五十二畫)ン(五十三畫)チ(五十四畫)性(五十五畫)質(五十六畫)ツ(五十七畫)ウ(五十八畫)マ(五十九畫)レ  
 (十二畫)發射(十三畫)ツ(十四畫)ウ(十五畫)準(十六畫)備(十七畫)金(十八畫)キ(十九畫)ン(二十畫)ナ(二十一畫)ヘ(二十二畫)通(二十三畫)貨(二十四畫)ウ(二十五畫)ツ(二十六畫)ウ(二十七畫)ン(二十八畫)ヨ(二十九畫)通(三十畫)過(三十一畫)フ(三十二畫)カ(三十三畫)ユ(三十四畫)貯(三十五畫)ワ(三十六畫)タ(三十七畫)ク(三十八畫)連(三十九畫)レ  
 綿(四十畫)ヒ(四十一畫)キ(四十二畫)ク(四十三畫)連(四十四畫)接(四十五畫)ツ(四十六畫)ツ(四十七畫)結(四十八畫)算(四十九畫)ア(五十畫)ン(五十一畫)グ(五十二畫)メ(五十三畫)診(五十四畫)斷(五十五畫)ワ(五十六畫)メ(五十七畫)キ(五十八畫)湮(五十九畫)滅(六十畫)ウ(六十一畫)キ(六十二畫)ヘ(六十三畫)ル(六十四畫)猥(六十五畫)褻(六十六畫)ヲ(六十七畫)ナ(六十八畫)ダ  
 過(六十九畫)失(七十畫)マ(七十一畫)チ(七十二畫)ヤ(七十三畫)發(七十四畫)覺(七十五畫)ワ(七十六畫)ル(七十七畫)ラ(七十八畫)給(七十九畫)與(八十畫)ス(八十一畫)ワ(八十二畫)タ(八十三畫)參(八十四畫)照(八十五畫)ア(八十六畫)ヒ(八十七畫)キ(八十八畫)ス(八十九畫)超(九十畫)過(九十一畫)ス(九十二畫)コ(九十三畫)連(九十四畫)署(九十五畫)ミ(九十六畫)ン(九十七畫)ヤ(九十八畫)ウ  
 準(九十九畫)據(一百畫)ヲ(一百一畫)ミ(一百二畫)フ(一百三畫)ナ(一百四畫)十(一百五畫)三(一百六畫)畫(一百七畫)督(一百八畫)促(一百九畫)狀(二百畫)サ(二百一畫)カ(二百二畫)イ(二百三畫)ン(二百四畫)ク(二百五畫)經(二百六畫)過(二百七畫)ル(二百八畫)ス(二百九畫)グ(三百畫)種(三百一畫)類(三百二畫)モ(三百三畫)タ(三百四畫)ネ(三百五畫)義(三百六畫)務(三百七畫)ト(三百八畫)ヒ  
 メ(三百九畫)ノ(四百畫)ツ(四百一畫)ト(四百二畫)照(四百三畫)會(四百四畫)ハ(四百五畫)セ(四百六畫)ル(四百七畫)ア(四百八畫)搬(四百九畫)運(五百畫)ハ(五百一畫)モ(五百二畫)コ(五百三畫)ナ(五百四畫)ビ(五百五畫)傷(五百六畫)痕(五百七畫)ヅ(五百八畫)テ(五百九畫)キ(六百畫)毀(六百一畫)傷(六百二畫)ル(六百三畫)ヤ(六百四畫)ブ(六百五畫)景(六百六畫)况(六百七畫)ウ(六百八畫)モ(六百九畫)ヨ  
 傳(七百畫)播(七百一畫)ガ(七百二畫)ヒ(七百三畫)ル(七百四畫)ロ(七百五畫)稟(七百六畫)議(七百七畫)ハ(七百八畫)ウ(七百九畫)ヒ(八百畫)カ(八百一畫)罷(八百二畫)勉(八百三畫)ツ(八百四畫)ヨ(八百五畫)ク(八百六畫)メ(八百七畫)十(八百八畫)四(八百九畫)畫(八百十畫)對(八百十一畫)照(八百十二畫)ア(八百十三畫)テ(八百十四畫)ハ(八百十五畫)リ(八百十六畫)ス(八百十七畫)閣(八百十八畫)オ(八百十九畫)ク(八百二十畫)シ(八百二十一畫)携(八百二十二畫)イ  
 帶(八百二十三畫)ザ(八百二十四畫)タ(八百二十五畫)ツ(八百二十六畫)ヘ(八百二十七畫)ル(八百二十八畫)翫(八百二十九畫)弄(八百三十畫)ソ(八百三十一畫)モ(八百三十二畫)ブ(八百三十三畫)テ(八百三十四畫)ア(八百三十五畫)精(八百三十六畫)細(八百三十七畫)シ(八百三十八畫)ク(八百三十九畫)ワ(八百四十畫)ク(八百四十一畫)夥(八百四十二畫)多(八百四十三畫)ハ(八百四十四畫)オ(八百四十五畫)ビ(八百四十六畫)タ(八百四十七畫)精(八百四十八畫)覈(八百四十九畫)ク(八百五十畫)ワ(八百五十一畫)ク(八百五十二畫)ワ(八百五十三畫)メ(八百五十四畫)シ(八百五十五畫)ク(八百五十六畫)經(八百五十七畫)レ  
 驗(八百五十八畫)ツ(八百五十九畫)ミ(八百六十畫)ラ(八百六十一畫)ヘ(八百六十二畫)精(八百六十三畫)覆(八百六十四畫)シ(八百六十五畫)ク(八百六十六畫)ラ(八百六十七畫)ワ(八百六十八畫)ベ(八百六十九畫)シ(八百七十畫)ク(八百七十一畫)徵(八百七十二畫)喚(八百七十三畫)ダ(八百七十四畫)ヨ(八百七十五畫)ビ(八百七十六畫)演(八百七十七畫)劇(八百七十八畫)イ(八百七十九畫)シ(八百八十畫)ハ(八百八十一畫)十(八百八十二畫)五(八百八十三畫)畫(八百八十四畫)糊(八百八十五畫)口(八百八十六畫)ス(八百八十七畫)ク(八百八十八畫)ギ(八百八十九畫)ナ

弊(八百九十畫)習(九百畫)ク(九百一畫)セ(九百二畫)ル(九百三畫)廢(九百四畫)業(九百五畫)シ(九百六畫)マ(九百七畫)イ(九百八畫)ウ(九百九畫)寡(一千畫)婦(一千一畫)ケ(一千二畫)ゴ(一千三畫)疑(一千四畫)念(一千五畫)ガ(一千六畫)ウ(一千七畫)タ(一千八畫)醉(一千九畫)態(二千畫)ナ(二千一畫)リ(二千二畫)ウ(二千三畫)タ(二千四畫)違(二千五畫)背(二千六畫)ク(二千七畫)ム  
 標(二千八畫)旗(二千九畫)シ(三千畫)ハ(三千一畫)タ(三千二畫)シ(三千三畫)鎮(三千四畫)鎖(三千五畫)リ(三千六畫)ク(三千七畫)サ(三千八畫)衝(三千九畫)突(四千畫)ア(四千一畫)ツ(四千二畫)キ(四千三畫)ル(四千四畫)墜(四千五畫)落(四千六畫)ル(四千七畫)オ(四千八畫)ツ(四千九畫)蔓(五千畫)莖(五千一畫)コ(五千二畫)ル(五千三畫)ビ(五千四畫)戲(五千五畫)遊(五千六畫)ハ(五千七畫)タ  
 ム(五千八畫)影(五千九畫)響(六千畫)イ(六千一畫)サ(六千二畫)シ(六千三畫)ヒ(六千四畫)十(六千五畫)六(六千六畫)畫(六千七畫)豫(六千八畫)シ(六千九畫)ア(七千畫)メ(七千一畫)ラ(七千二畫)カ(七千三畫)輻(七千四畫)湊(七千五畫)マ(七千六畫)ル(七千七畫)ツ(七千八畫)整(七千九畫)頓(八千畫)ア(八千一畫)デ(八千二畫)キ(八千三畫)ル(八千四畫)變(八千五畫)換(八千六畫)ル(八千七畫)カ(八千八畫)ハ  
 編(八千九畫)綴(九千畫)ゴ(九千一畫)ム(九千二畫)曉(九千三畫)解(九千四畫)カ(九千五畫)ル(九千六畫)ク(九千七畫)ワ(九千八畫)諮(九千九畫)問(十千畫)ハ(十千一畫)セ(十千二畫)ヒ(十千三畫)ア(十千四畫)稽(十千五畫)滯(十千六畫)ド(十千七畫)ル(十千八畫)マ(十千九畫)錯(十一千畫)雜(十一千一畫)シ(十一千二畫)ル(十一千三畫)リ(十一千四畫)マ(十一千五畫)篤(十一千六畫)志(十一千七畫)カ(十一千八畫)ハ  
 ア(十一千九畫)ッ(十二千畫)キ(十二千一畫)コ(十二千二畫)十(十二千三畫)七(十二千四畫)畫(十二千五畫)遵(十二千六畫)奉(十二千七畫)ル(十二千八畫)マ(十二千九畫)モ(十三千畫)營(十三千一畫)業(十三千二畫)イ(十三千三畫)ト(十三千四畫)セ(十三千五畫)擬(十三千六畫)製(十三千七畫)シ(十三千八畫)ラ(十三千九畫)テ(十四千畫)コ(十四千一畫)櫛(十四千二畫)端(十四千三畫)ハ(十四千四畫)シ(十四千五畫)キ(十四千六畫)購(十四千七畫)カ(十四千八畫)ハ  
 買(十四千九畫)ト(十五千畫)カ(十五千一畫)ヒ(十五千二畫)潛(十五千三畫)伏(十五千四畫)レ(十五千五畫)カ(十五千六畫)ク(十五千七畫)點(十五千八畫)檢(十五千九畫)ラ(十六千畫)ト(十六千一畫)リ(十六千二畫)シ(十六千三畫)十(十六千四畫)八(十六千五畫)畫(十六千六畫)鎔(十六千七畫)解(十六千八畫)ス(十六千九畫)ト(十七千畫)カ(十七千一畫)簿(十七千二畫)冊(十七千三畫)メ(十七千四畫)チ(十七千五畫)ヤ(十七千六畫)ウ  
 (十九畫)懲(二十畫)罰(二十一畫)ス(二十二畫)コ(二十三畫)ラ(二十四畫)廿(二十五畫)一(二十六畫)畫(二十七畫)徽(二十八畫)毒(二十九畫)サ(三十畫)カ(三十一畫)廿(三十二畫)二(三十三畫)畫(三十四畫)總(三十五畫)續(三十六畫)ト(三十七畫)ヒ(三十八畫)キ(三十九畫)マ(四十畫)顛(四十一畫)仆(四十二畫)レ(四十三畫)タ(四十四畫)ル(四十五畫)チ  
 (廿五畫)糶(廿六畫)賣(廿七畫)ウ(廿八畫)セ(廿九畫)リ

訓解

官准  
明治十一年第五月廿三日

右文社

編輯人

青

木浩藏  
小石川原町  
十三番地

出版人

澤

愛山  
下谷練辨町  
四拾二番地

印刷

葆

光社  
湯島壹丁目  
十三番地



定價

一明治十一年五月第五號出版 但內務省日誌 司法省指令錄 并々

但每月廿三日出版

壹ヶ月分 金貳拾錢

前金三ヶ月分 金五拾五錢

半ヶ年分 金壹圓五錢

壹ヶ年分 金貳圓

十年十一月出版

明治十年一月ヨリ七月迄合編壹冊 定價金九拾錢

同年八月ヨリ十二月迄合編壹冊近日出版 同金七拾五錢

賣		捌	
東京銀座四丁目	博聞社	大坂心齋橋筋唐物町	森本太助
全 芝三嶋丁	山中市兵衛	全 備後町角	吉岡平助
全 淺草茅丁	北澤伊八	全 安土町	鹿田靜七
全 馬喰町二丁目	品川金重郎支店	全 心齋橋筋壹丁目	松村九兵衛
全 石町二丁目	椀屋喜兵衛	京都寺町通四條上ル	田中治兵衛
全 日本橋西河岸	須原鐵二	兵庫縣西宮内町	村松爲介
全 南傳馬町二丁目	有隣堂	全 淡路國須本	福浦文造
全 本町貳丁目	柳川梅次郎	全 姫路	山野長平
全 室町三丁目	高木源兵衛	和歌山縣本町	平井文助
全 通三丁目	長野屋龜七	長崎袋町四ッ角	滿都家太平治
全 鍛冶丁	富士屋金十郎	廣島縣中島本町	秋田惣兵衛
全 芝太神宮前	和泉屋吉兵衛	山口縣中市町	阿部準輔
全 南傳馬町壹丁目	吉川半七	熊本鹽屋町	活版舎
全 大傳馬町貳丁目	富田彦次郎	大分縣中津新博多町	野依曆三
全 京橋弓丁	瓊隆舎	福岡縣福岡簀子町	古野德三郎
全 兩國藥研堀	報知社	堺縣大小路市ノ町	文正堂
全 神田淡路町壹丁目	太田榮	滋賀縣大津下大門丁	宮協睡仙

書

肆

千葉縣下舟橋  
 全 千葉市場丁  
 橫濱辨天通二丁目  
 群馬縣高崎  
 埼玉縣下浦和  
 全 川越  
 全 行田町  
 茨城縣水戸泉町  
 全 下市泉町  
 埼玉縣熊谷驛  
 栃木縣下宇都宮  
 靜岡縣濱松連尺町  
 三重縣津東町  
 全伊賀上野本町通  
 愛知縣名古屋本町  
 岡山縣下之間  
 島根縣松江本町

品川 金重郎  
 全 支店  
 丸屋 善八  
 文 心堂  
 博 聞分社  
 菅 間定次郎  
 共 和堂  
 新 報義社  
 大 內長右衛門  
 博 文堂  
 田 中庄太郎  
 積 石堂  
 淺 野東助  
 豐 住伊兵衛  
 片 野東四郎  
 富 木徳得  
 園山喜三右衛門

岐阜縣西村木丁  
 宮城縣仙台糠倉丁  
 山形縣七日町  
 全 鶴岡五日丁  
 福島縣 福島  
 全 縣白川天神丁  
 岩手縣盛岡肴町  
 石川縣下越前國竹生黒田  
 秋田縣横手驛  
 函館  
 山梨縣常盤丁  
 東京通三丁目  
 山 岸 彌 平  
 中 村 清 助  
 八文字屋太右衛門  
 地 主 文 藏  
 齋 藤 彦太郎  
 奥 村 市右衛門  
 佐 藤 庄兵衛  
 渡 邊 八右衛門  
 魁 文 社  
 內 藤 傳右衛門  
 丸 屋 善 七

禁電子式複写